あまつき 12

Special Edition

高山しのぶ

SHINOBU TAKAYAMA

ZERO-SUM comics

一迅社

あまつき 12

高山しのぶ

紡がれる想い。過ぎ去っていった時間。

それは、世界が動く前の御話。

梵天を拾い、育てた白緑の想い、
姫巫女になる以前の銀朱の素顔、
そして、天才ともてはやされた紺の過去が綴られる
彼方に流れ去った珠玉の物語達を収録!!

32P小冊子付 限定版!!

高山しのぶ

IDCS
一迅社

月刊comic ZERO-SUM 好評連載陣

- 07-GHOST……雨宮由樹・市原ゆき乃
- LOVELESS……高河　ゆん
- カーニヴァル……御巫　桃也
- 天球儀 ―セフィラノーツ―……瀬之たつね&高宮あや etc...

あまつき 高山しのぶ

◉大好評連載中!!

10月28日(木)発売のZERO-SUM12月号に、この巻の続きを掲載!!
「描き下ろしイラストキーホルダー」応募者全員サービスも実施!

あまつき 12

Special Edition

高山しのぶ

SHINOBU TAKAYAMA

ZERO-SUM COMICS

あまつき 12

高山しのぶ

IDCS 一迅社

一迅社

ZERO-SUM COMICS 既刊好評発売中

A5判

新女神異聞録ペルソナ BE YOUR TRUE MIND	全8巻	上田 信舟
ストレンジ・プラス	①-⑩	美川べるの
最遊記RELOAD	全10巻	峰倉かずや
最遊記	全9巻	峰倉かずや
最遊記外伝	全4巻	峰倉かずや
冥界噺	全2巻	凜野 ミキ
時間・空間・人物	全1巻	凜野 ミキ

B6判

オリンポス	全2巻	あ き
07-GHOST CHILDREN	全1巻	雨宮由樹 市原ゆき乃
07-GHOST	①-⑩	雨宮由樹 市原ゆき乃
コーセルテルの竜術士~子竜物語~	①	石動あゆま
緋の纏	①-②	乾 みく
彩の神	①-④	上田 信舟
DAWN~冷たい手	全6巻	上田 信舟
破天荒遊戯	①-⑫	遠藤 海成
Landreaall	①-⑯	おがきちか
Are you Alice?	①-②	作画 片桐いくみ 原作 二宮 愛
斬バラ!	①-②	片桐いくみ
当世幻想博物誌	①	片山 愁
魔法使いの猫	①	喜久田ゆい
#000000-ultra black-	①-⑤	如月 芳規
ボクラノキセキ	①-③	久米田夏緒
LOVELESS	①-⑨	高河 ゆん
イザヤカク	①-③	酒巻 行里
planetary*	①	さくら真呂
天球儀 セフィラノーツ	①-②	瀬之たつね 高宮あや
ハイガクラ	①-③	高山しのぶ
あまつき	①-⑫	高山しのぶ
MR.MORNING	全2巻	高山しのぶ
鉄壱智	①-⑦	なるしまゆり
DOLLS	①-⑨	naked ape
噂屋	①-⑤	蓮見ナツメ 原作:保坂歩
TRAMP.	①-②	藤原 ゆう
クリムゾン・エンパイア	①-②	作画 双星はづき

一迅社HomePage

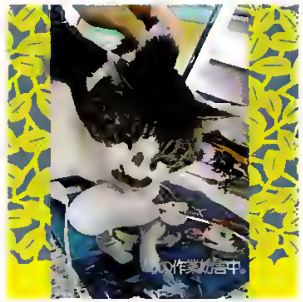
http://www.ichijinsha.co.jp/

一迅社オンラインショップ

ドラマCDやテレカなど、ここでしか
入手できないレアな商品が盛りだくさん!

http://www.shop.ichijinsha.co.jp/

COMMENT



高山しのぶ

SHINOBU TAKAYAMA

12巻です。最終面へじわじわ
今回限定版は小冊子とのリ
さすがにでっかい梵天膝の
しませんでしたが…。

ZERO-SUM SOORS NEXT ISSUE

2010年11月25日(木)発売予定

◎噂屋[6] 蓮見ナツメ/原作:保坂歩
◎緋の纏[3] 乾みく
◎+C sword and cornet[5] 遊行寺たま
◎魔界王子 devils and realist[2] 雪広うたこ/原作:高殿円
◎di[e]ce ダイス[6] 山本佳奈/原作:咲木音穂
◎クローバーの国のアリス~チェシャ猫とワルツ~[5] 藤丸豆ノ介 原作:QuinRose
◎クローバーの国のアリス~白ウサギと時計仕掛けの扉~[3] 木崎ナユ 原作:QuinRose
◎クローバーの国のアリス~三月ウサギ~ 岩城そよご 原作:QuinRose

ZERO-SUM COMICS 既刊好評発売中

A5判

新女神異聞録ペルソナ BE YOUR TRUE MIND	全8巻	上田 信舟
ストレンジ・プラス	①-⑩	美川べるの
最遊記RELOAD	全10巻	峰倉かずや
最遊記	全9巻	峰倉かずや
最遊記外伝	全4巻	峰倉かずや
冥界噺	全2巻	凛野 ミキ
時間・空間・人物	全1巻	凛野 ミキ

B6判

オリンポス	全2巻	あ き
07-GHOST CHILDREN	全1巻	原作 高由樹 市原ゆき乃
07-GHOST	①-⑩	原作 高由樹 市原ゆき乃
コーセルテルの竜術士~子竜物語~	①	石動あゆま
緋の纏	①-②	乾 みく
彩の神	①-④	上田 信舟
DAWN~冷たい手	全6巻	上田 信舟
破天荒遊戯	①-⑫	遠藤 海成
Landreaall	①-⑯	おがきちか
Are you Alice?	①-②	作画 片桐いくみ 原作 二宮 愛
斬バラ!	①-②	片桐いくみ
当世幻想博物誌	①	片山 愁
魔法使いの猫	①	喜久田ゆい
#000000-ultra black-	①-⑤	如月 芳規
ボクラノキセキ	①-③	久米田夏緒
LOVELESS	①-⑨	高河 ゆん
イザヤカク	①-③	酒巻 行里
planetary*	①	さくら真呂
天球儀 セフィラノーツ	①-②	瀬之たつね 高宮あや
ハイガクラ	①-③	高山しのぶ
あまつき	①-⑫	高山しのぶ
MR.MORNING	全2巻	高山しのぶ
鉄壱智	①-⑦	なるしまゆり
DOLLS	①-⑨	naked ape
噂屋	①-⑤	還見ナツメ 原作：保坂歩
TRAMP.	①-②	藤原 ゆう
クリムゾン・エンパイア~Circumstances to serve a noble~	①-②	作画 双葉はづき 原作 QuinRose
カーニヴァル	①-⑥	御巫 桃也
アクマゼルマ	①	御船 麻砥
拝み屋横丁顛末記	①-⑬	宮本 福助
di[e]ce—ダイス—	①-⑤	山本佳奈 原作 咲未音穂
魔界王子 devils and realist	①	書広うたこ 原作 高殿 円
+C sword ond cornett	①-④	遊行寺たま
Inferno—インフェルノ—	全1巻	厘の ミキ
冥界落語	全2巻	厘の ミキ
ピカピカ家畜	全3巻	厘の ミキ
光	全4巻	凛野 ミキ
クラブクライム	全3巻	凛野 ミキ
不機嫌な名探偵divisian-Ø	①-④	渡辺 瑞樹

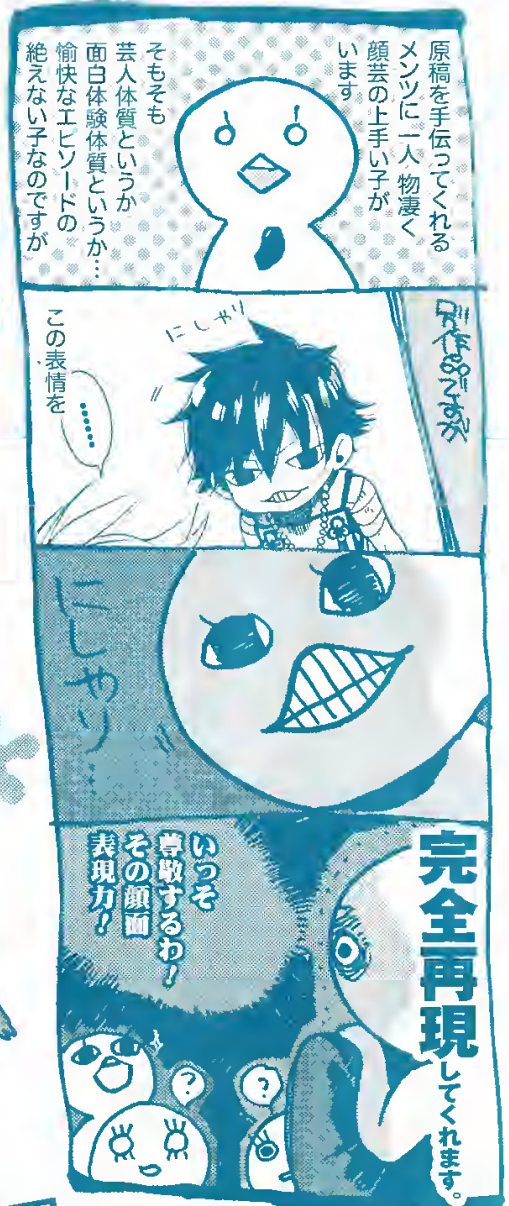
COMMENT

高山しのぶ

SHINOBU TAKAYAMA

12巻です。最終面へじわじわ出発準備巻です。
今回限定版は小冊子とのリンク絵になりました。
さすがにでっかい梵天膝のせは気持ち悪いので
しませんでしたが…。

すごく愉快なお友達。



漫画体質ってのが一番正しいかも。

あまつき 12

高山しのぶ

一迅社

どうしろと…

See you next time!

御世話になりました！

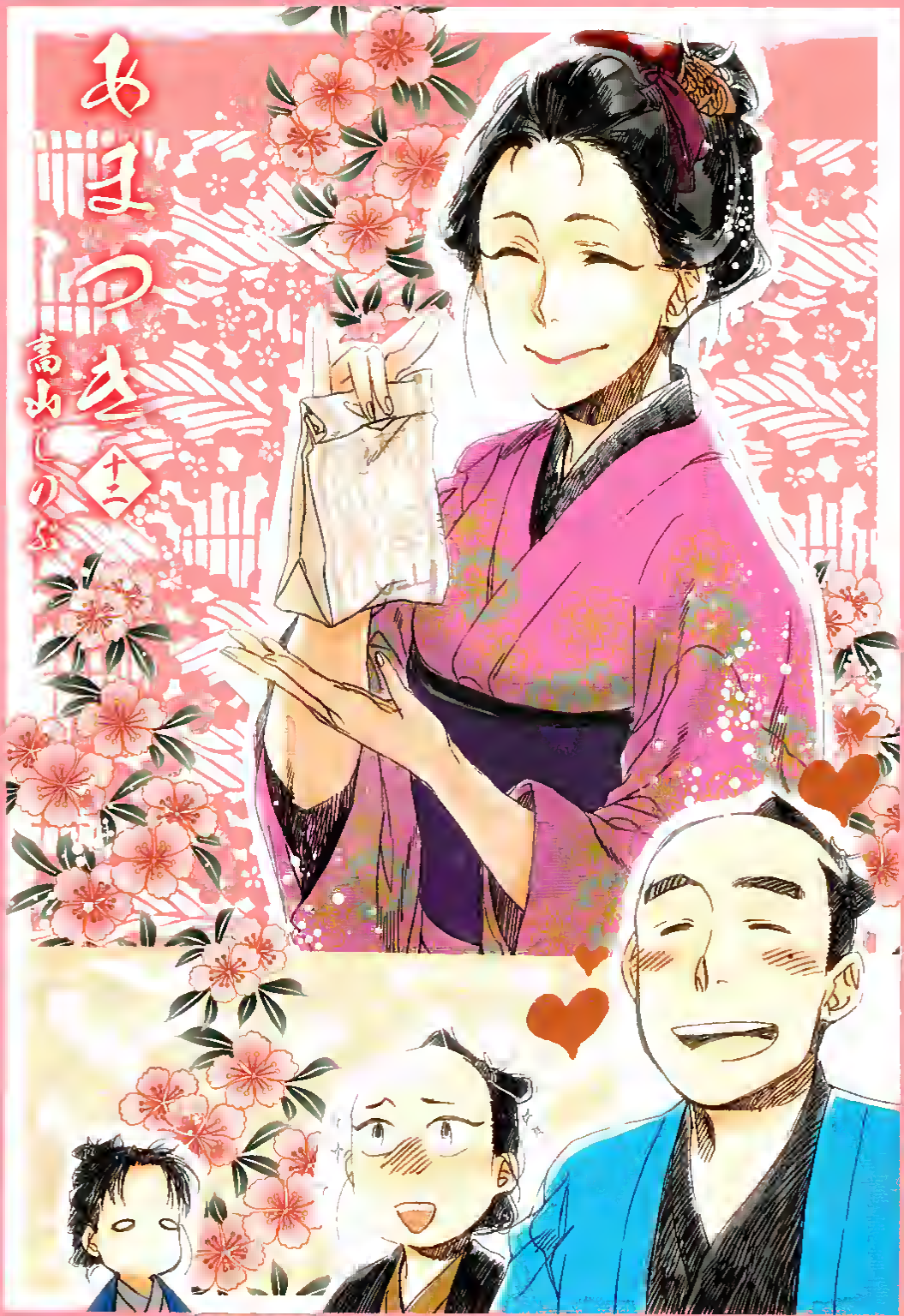
茶豆/せいの/カイナ/こも
千秋さん/ゆん/なつ/ちえ
ちゃん/関係各者様/担当
君島さん/家族/友人一同
応援下さった皆様

多謝！

あほうさ

十二

高めしのふ



あまつき 12

Contents

第六十八夜　萩の花ずり　5

第六十九夜　糸遊の絆　29

第七十夜　未黒野の黒煙　55

第七十一夜　麦踏み／朱　83

第七十二夜　麦踏み／碧　111

第七十三夜　麦踏み／橙　145

あまつき【十二】
高山しのぶ

人物紹介

六合鴇時…柔軟な性格の高校生。天網を書き換える力を持つ「白紙の者」もある。銀朱の記憶を見せてもらいこの世界の成り立ちを知った。

篠ノ女紺…こちらに迷い込んだ、鴇時の同級生。初代の「白紙の者」だったが、現在はその記憶はない。

露草…梵天と共に白緑に育てられた妖。人間は嫌いだが助けてくれた鴇時には懐いている。

梵天…妖の頭的存在で、天網を読み解くことができる四天の一人。銀朱と深い縁を持つ。

緋禍…過去に八百比丘尼と呼ばれていた不老不死の半妖。陰陽寮の参謀的役割。

黒鳶(右)・紅(左)…陰陽寮に属する兄妹。紅が鬼面憑きで、黒鳶は妖使いの力を持つ。

あらすじ

最先端のCG技術で江戸の町を再現した大江戸幕末巡回展を訪れた鴇時は、妖、夜行と鵺に襲われ、幕末の江戸に良く似た異世界に迷い込んでしまう。

外界から入ってきた存在故に、彼は帝天の決めた運命「天網」を変える特殊な力を持っていた。その能力を欲した妖と人の双方から助力を求められるが、鴇時はどちらにもうせず己の見つけた道を選んだ。

その結果、銀朱は独力で帝天に挑み、敗れてしまう。銀朱はその存在を造り換えられ、更には今までの事件に関わった人々の記憶までも書き換えられてしまった。

その事実に腹を立てた鴇時は、帝天に抗すべく、協力者を増やす努力を始めた。紆余曲折の末、陰陽寮と露草達の協力を得るところまで漕ぎつけた鴇時達の前に、夜行とその支配下の妖が現れ、襲いかかってきた。

なんとか夜行や夜行の操る妖を撃退したものの、朽葉と真朱、そして、『本当の銀朱』の体が夜行の闇の中に連れ去られてしまう。

戦いの中で負った鴇時の傷も癒え、帝天と戦うため力を蓄える妖と陰陽寮達。そして、ようやく目を覚ました梵天は――。

……
……
空五倍子
いやだってあのすまん 大友だと思って
だからってこいつ連れて来てどうする

第六十八夜
萩の花ずり

それに一大事だったら それこそ
言う相手を選ぶべきで
無闇に他に頼るなど…
じっ
じっ
じっ
じっ
じっ
じっ
……

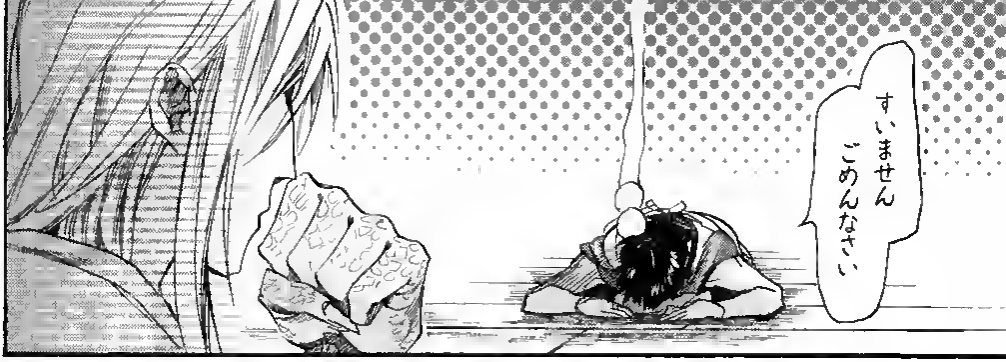
なんなんだい
鬱陶しい
言いたいことがあるなら
ハッキリ言ったらどうだい
ぐぐぐ
いやっ
いやっ…
ついて…

なんだい
――…首
見てみろよ

梵天
やめとけよ
ん
ぎゃおおお
みし
みし

…そいつのは犬神の噛み傷だからな
俺の薬じゃ治りが悪いんだよ
犬神…？
――…なるほど
空五倍子の言う通り
！
いや
もうほとんど治ってるんだよ
露草がみんなに薬とか分けてくれたし…
傷がかさぶたになってるし
じわ

今回は少々
寝るのが長すぎたね
梵
頭ァア
ドドドドド
金貸して
くれぇー
ドス
だがだがだがだがドッ
よかったああ 目ぇ覚めてぇぇぇぇぇぇぇ

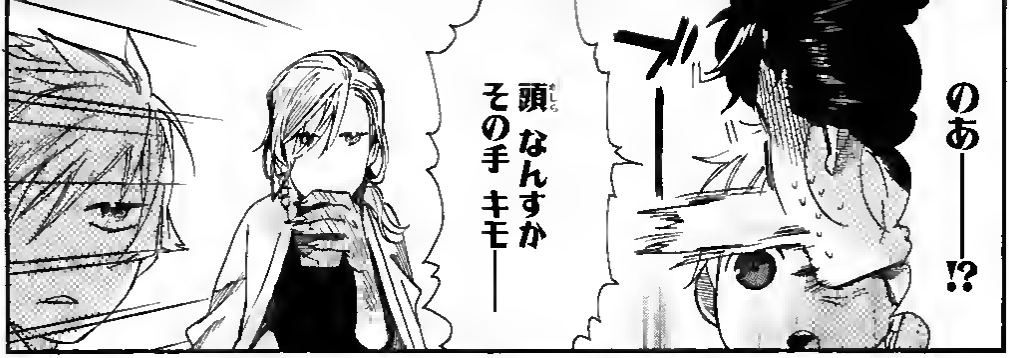

すいません
ごめんなさい

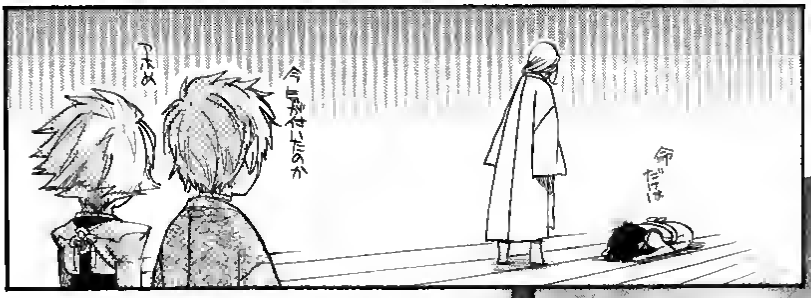
どうしたんです
煤竹さん
あんあん
ひどい…ひどい
あうう
あのやぶ医者が
ばーちゃんから
貰った分
返さなきゃ
メシ食わせねえ
って～～～
あーあ
自業自得ですよ

…？
やぶ医者…？
煤竹お前　まさか…

ひえ
やっ　あのあのあの
いや　あの医者の奴は
俺はフツーに
頭の言う通りに
したんですけどっ!!
こいつが!
こいつが引き連れて
きたんスよ!
霧草の坊主と
一緒に!!

霧草と…陰陽寮を?
へ?
頭　やっぱり
あいつが陰陽寮って
知ってたんで…
って


のあ――!?
ズー――
頭(あたま) なんすか
その手 キモ――

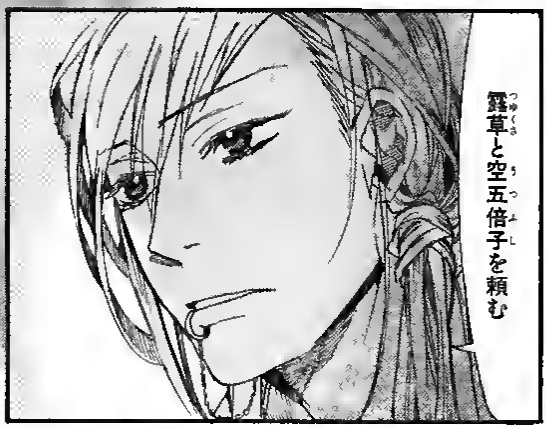

今 舌打ちしたのか
やめ
俺だけ

まず俺のことから話そうか
――うん
――ハア
とりあえず聞かねばならない話は後に回すか
多そうだしな
まあ
この通り見てもらえばわかるだろうが

俺にはもう帝天の加護はない
天網も読めず触れず引き出せない
梵天でなく
ただの無力な妖に戻ってしまったということだろうな
な
なん
で
…帝天の怒りに触れたのだろうよ
勝手が過ぎるってね

な…

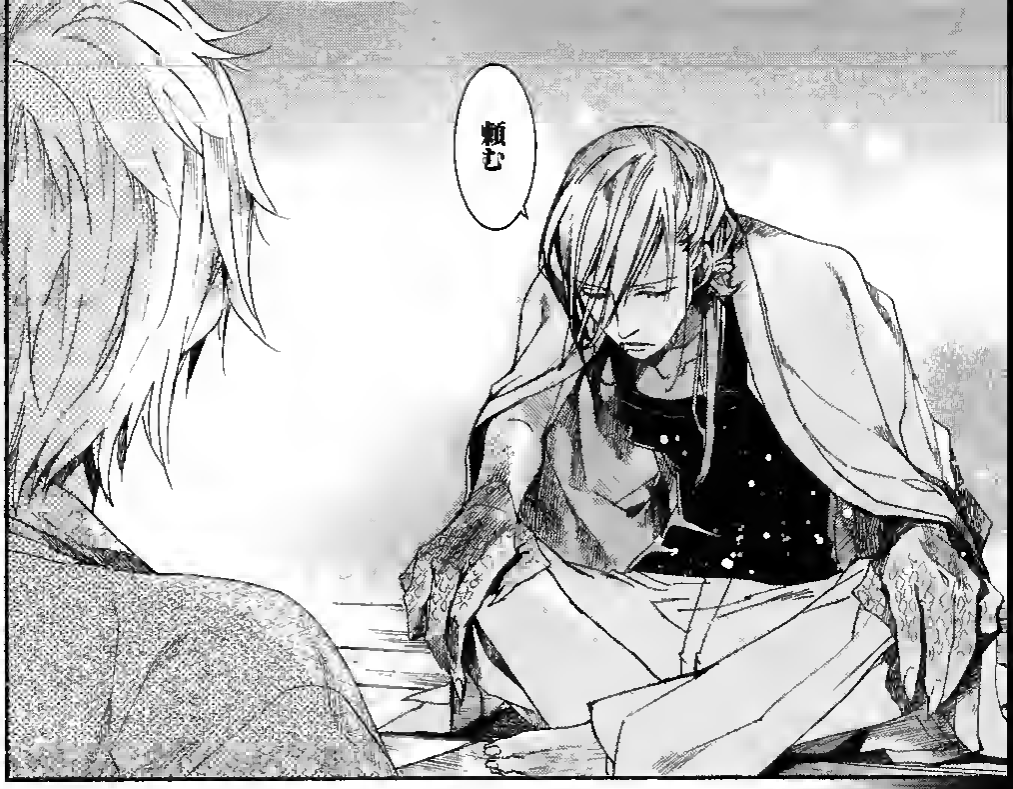
――だから
君に頼みたい
ズッ
え


露草と空五倍子を頼む

俺はもうなんの力もない
こいつらをどうにもできない

こいつらはそれぞれ
不安定な存在だ
君の側に置き

消えないように
してやってくれ


頼む

ふ

ざけんな!!
なんだそれ!!
お前にそんなこと
してもらう
筋合いは…
露草

今後は無茶を控えろ

それはもう
替えがきかない
破いたりしたら
お前が消えてなくなるぞ
鬼ムム
――っ…
帝天と
何があったんだよ!!?
どうしてそんなことに
なっちまったんだよ
説明しろよ!!
――!…
――…
お前には
言っても
わからない
てめっ…

ぐあ
びん
てぇい

いっ
いっ…
ひっ
全くもう
形は変わっても
考え方に進歩
ねーなァ
よい子は真似しちゃいけません

露草だってもう
「何も知らないまま
守られてくれる」ような
歳じゃないだろ?
ヤれヤれ

そんなだから
お前は「弱」なんだよ

……

…露草…？
俺じゃねーよ
なぁ真澄
えっ？
真澄？

露草に聞いたんじゃないよ
坂守神社にいた時「見せ」てもらったから知ってんだよ
ふふーん

わかんないか？
…？

ホラ
お前だって 前俺に同じようにして「見せた」ことあったろ
俺と同じモノが見えていただろうからな
王様の時な

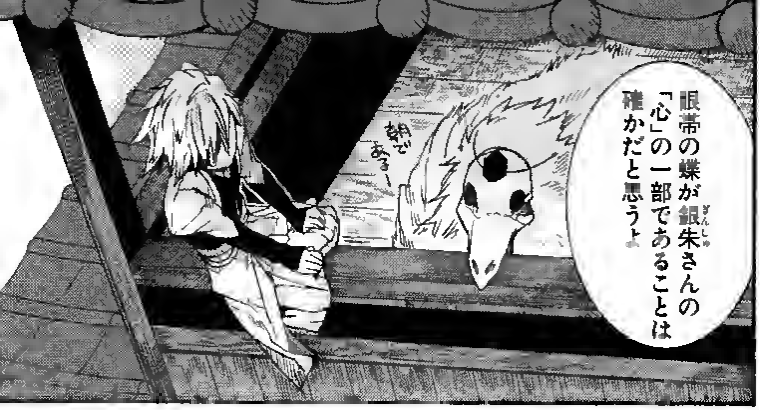
あれと同じ要領で
自分の記憶の欠片を見せてくれるんだよね
あの人

おかげで色々大事なこと知れたよ！
真朱ちゃんのこととか社のこととか
白緑さんのこととか――
…

ばらしちゃいました♪
はは
はは
冬の間 小鳥が一羽
せっせと銀朱さんの所に
通ってたこととか☆
!?
※イメージ

な
なんで知ってるんだ…!!?
いてて
いてててて
いつどこで
どうやって!?
そのことは姫以外
知らないはず…!!
まあまあ

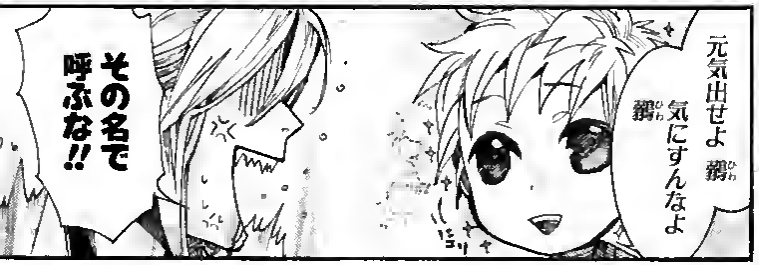
説明するから落ち着けよ
おとろしもどきさん
ぎゃ
ぷちぃ

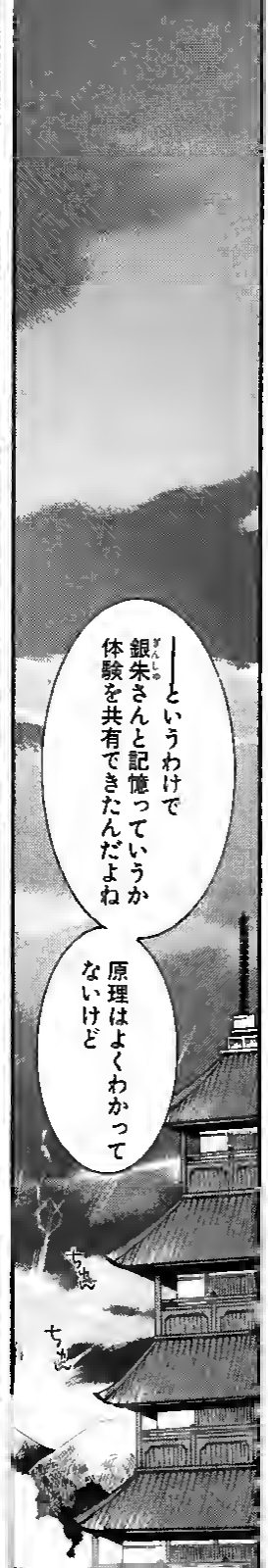

眼帯の蝶が銀朱さんの「心」の一部であることは確かだと思うよ
納得である

は

……
いや
理解したくないけど大方理解した

言ってること理解できたか？
五月蠅いだまれ
アレだめか

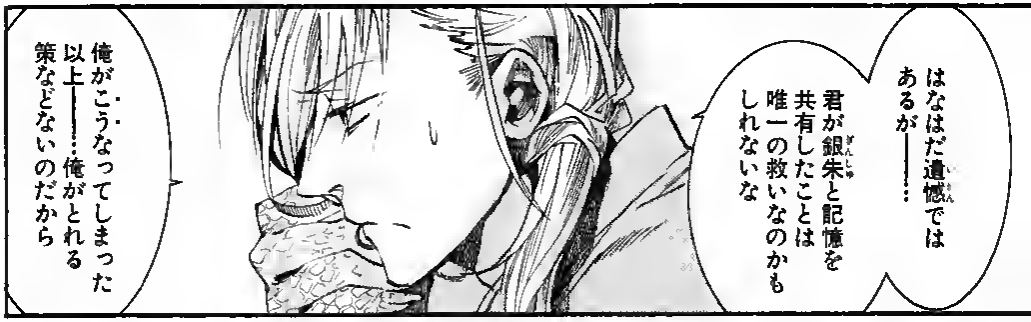

元気出せよ 鶺
気にすんなよ 鶺
その名で呼ぶな!!

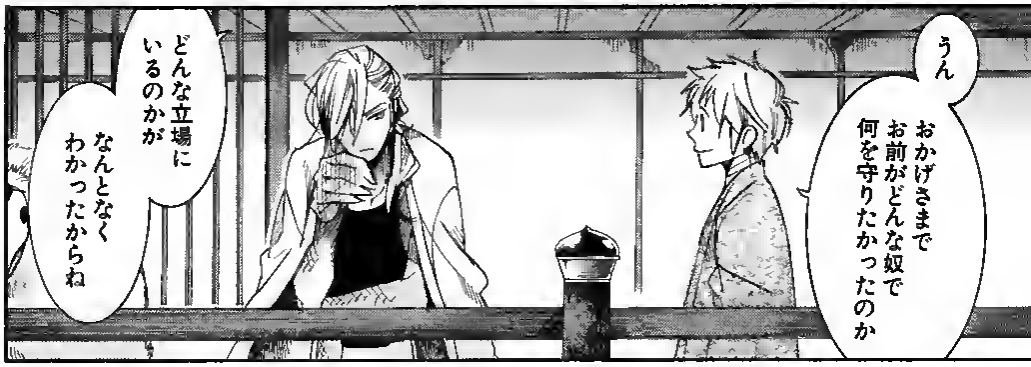

――というわけで銀朱さんと記憶っていうか体験を共有できたんだよね
原理はよくわかってないけど
七九三
七九三

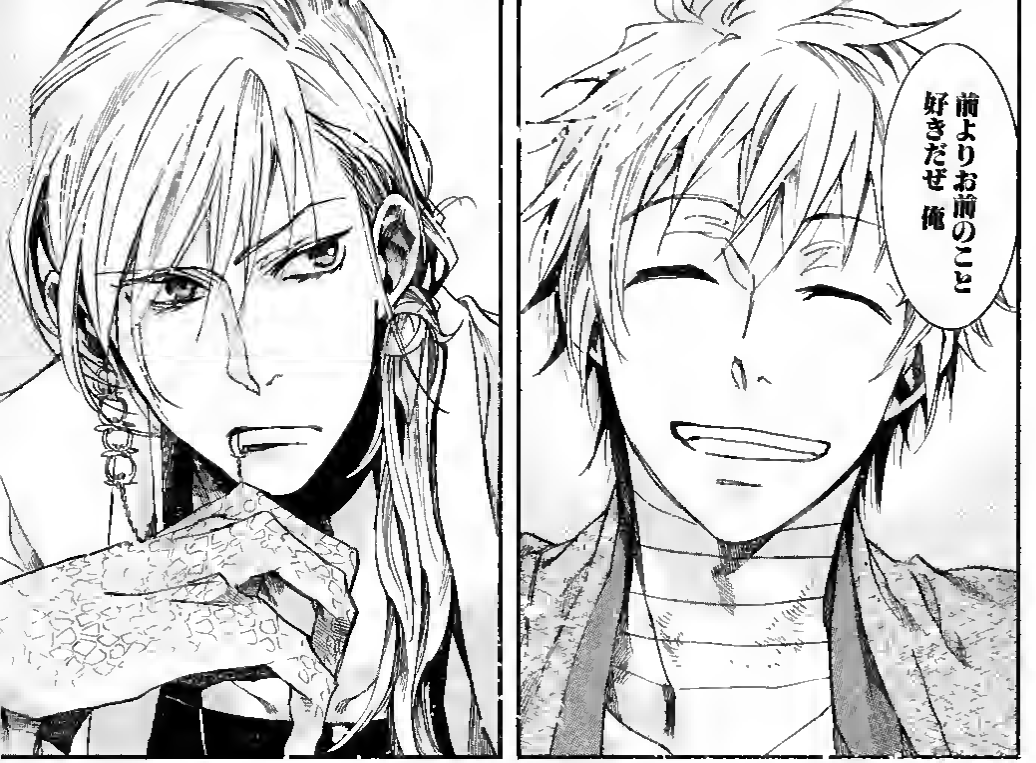
……

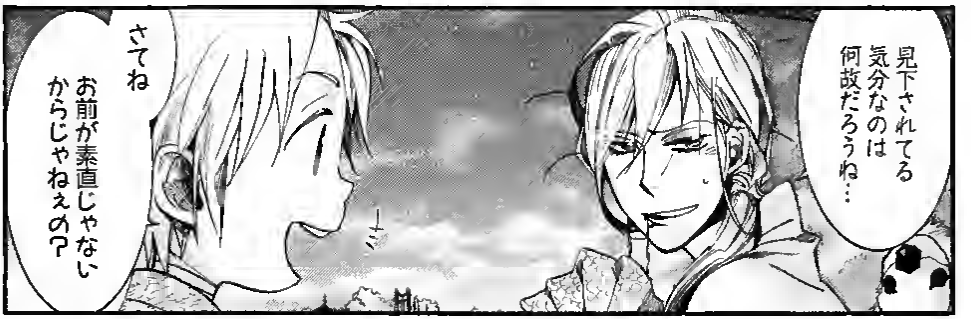
じゃ他に
なんて呼べば？
んー…
白緑か？

ブーン
悪夢だ…
かわいそうに
君が言うな

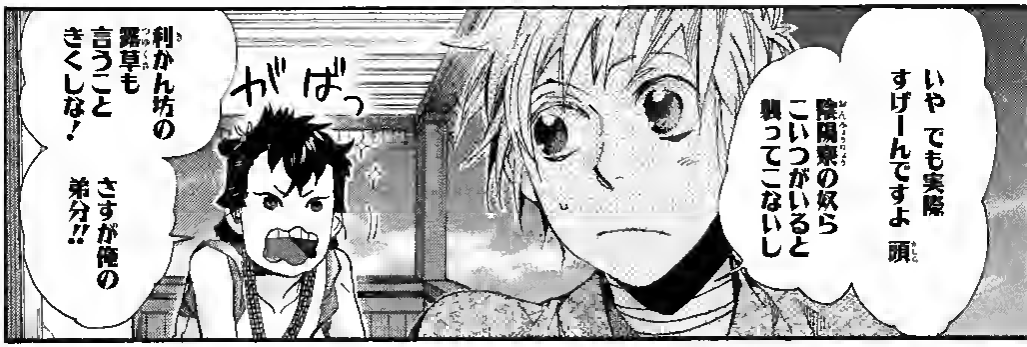

はなはだ遺憾ではあるが――…
君が銀朱と記憶を共有したことは唯一の救いなのかもしれないな
俺がこうなってしまった以上――…俺がとれる策などないのだから

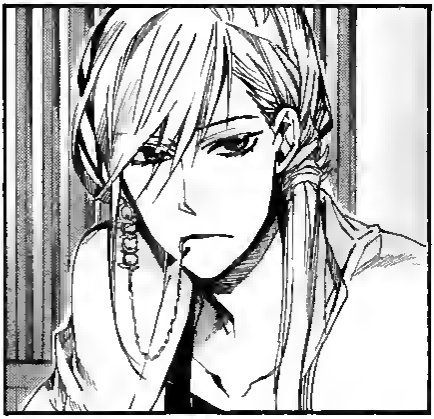

うん
おかげさまでお前がどんな奴で何を守りたかったのか
どんな立場にいるのかが
なんとなくわかったからね


前よりお前のこと
好きだぜ 俺


見下されてる
気分なのは
何故だろうね…
さてね
お前が素直じゃない
からじゃねえの?

…それで?
君はその図々しさで
まさか陰陽寮と妖を
和解させたとでも言うのかい?
まだそこまでは
いってないけど
この身を賭け金に
大博打打ってる感じだね


いや でも実際
すげーんですよ 頭
隊関東の奴ら
こいつがいると
集ってこないし
がばっ
利かん坊の
露草も
言うこと
きくしな！
さすが俺の
弟分!!



あいつらは
何考えてるのか
わかんねーぞ
一度 鵺を牢に捕まえて
閉じ込めてたんだからな

露草？
——…成り行きだよ
うるせえな
別にあいつらと
慣れあってる
つもりはねぇ
ただそいつが戦うなって
五月蠅いから休戦して
やってるだけだ
けどな

あいつらに取っ捕まって
使役されてる妖みたいに
そいつのことも使役する
つもりだったんだろうよ

だっつうのに
戦うなとか…
馬鹿じゃねぇの
いや——
でもさ

人とか妖とか
ごちゃごちゃもめてる間に
帝天に全部壊され
ちゃったら
しょうがないじゃん

だったら細かいこと
全部横に置いといて
俺を手伝ってくれる人
集める方が利口だろ？

――君が
「あまつき」を救い
主になる道を
選ぶと？

あはは
そんなこと言ってないって

ただ取り返したいだけ！

朽葉を

銀朱さんと
真朱ちゃんを

白緑さんを

陰陽寮の人を

帝天と夜行に奪われた
たくさんの

絆を

「君に用意された道は二つ」？

俺だけでなければ 道は無限だ

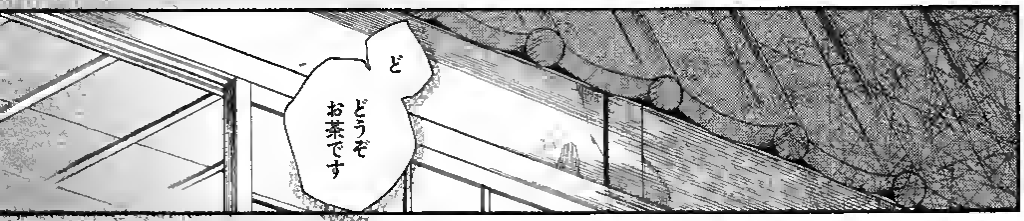
そう言えていれば何かが変わっただろうか？
大人しく協力しよう
露草も知りたいこと多いだろうし
！
は？
あははは
うんと
まずは個人面談かなーって
それで？
具体的に何するつもりなのだ？

——これから大切になるだろうからぜひ話聞いときたい人がいるんだよね
自分ですら
使いこなせない力を
引き出したあの人に——
おや
毎日お疲れさまっ
なにより
ほほほ
妹が優秀でもう
おやおや
なんでしょうこの人波
ざわ
ざわ
うーん
長屋に入れんのぉ
もし？
ここで何かあったんですか？

を組の辰五郎…!?

あったあった!
ざわ…
あの を組の辰五郎が来てんだよ!
ざわ

なんじゃ別嬪さん を組の親分を知らんのか——!?
を組の大親分 ううたらお前!!!
町火消で高鳴で 香具師で侠客!! 浅草寺の門番の!!
金知らずの子分の 数を三千人は抱える!!
泣く子も黙る 江戸の大親分!!
あの新門辰五郎だよ——!!!
…辰五郎ということは
おやまァ
まさか あの方が!?


どうぞ お茶です

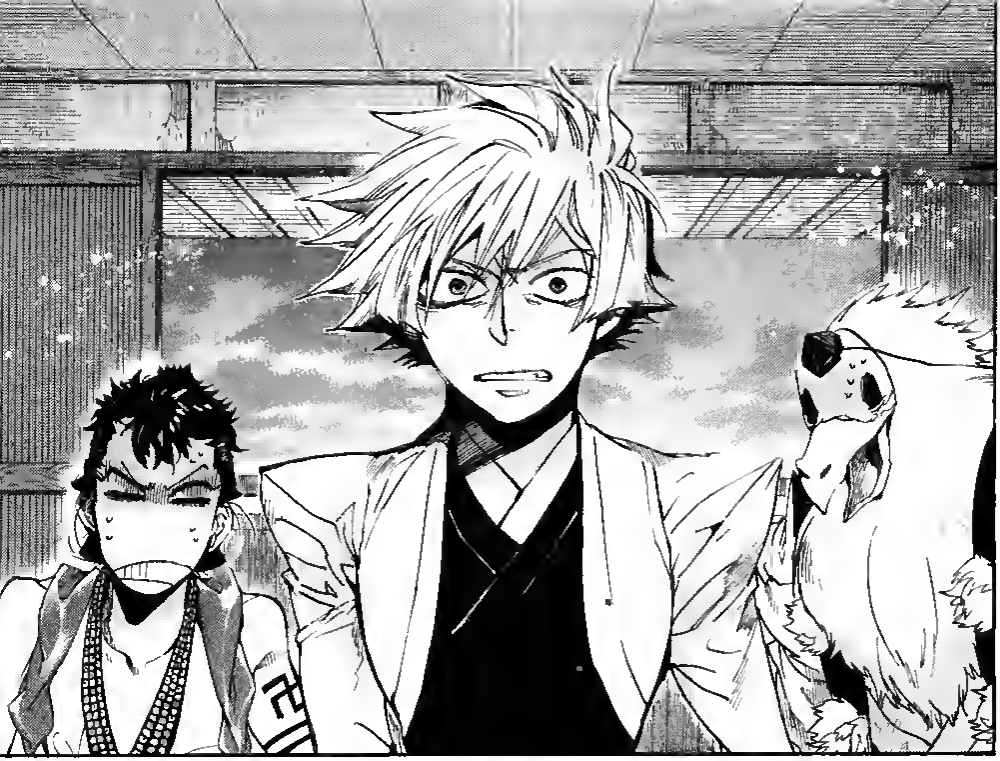
しかし
せっかく来たのに
「お目当て」が
留守たぁなぁ
いつ戻るのかも
わからねぇんじゃ
話にならねぇ
早く戻らねぇと
五月蠅えだろうし
を組
を組

慶喜さん
後はあっしが
面倒みやす
あんたは家に
お帰んなさい
はいはい
ズズー
を組

ひ〜〜
あいつ一体何したんだよ…

鴇!!
ペラペラ

第六十九夜
糸遊の絆



——…という
わけで——…
梵天の過去について
しーん

——…以上が俺が知ってること全てでした
何か質問は？

で…ではつまり
梵は……
この世を守るため
真朱の願いのまま
あの「銀朱」を作った
ということか…？

そして梵と姫巫女は
旧知の仲であり――……
今まで密かに
ではあるが――……
繋がりがあった上に
梵は

帝天の手先でも
あったと――……
だから帝天で
ありえたのだと
そういうことか――!?

…そうだな

……っ！
露草!?
ふっ　ざけんな　お前!!
白緑の体を人間なんかにくれてやっただと!?
白緑を殺した連中とてめえも同じじゃねえか!!
この裏切り者!!
てめぇ本当にくそ野郎だな!!
あいつらと連んで白緑を殺しやがって!!!

…っ白緑の言ったとおりじゃねぇか…
白緑は…ずっとお前のこと気にかけてた
お前が自分を殺すかもしれないって感じてたくせにお前の側にいてやれって…
いつもいつもお前のことばっか言ってた
…つなのに…!!
その上 お前は…!!
帝天の手先になってこいつや俺達のことまで裏切ってやがったのかよ!!
――…そうなるな
ナイツ
この…!!

ろおおおお
嬉!?
またお前かー!!

ぐぼお
!?

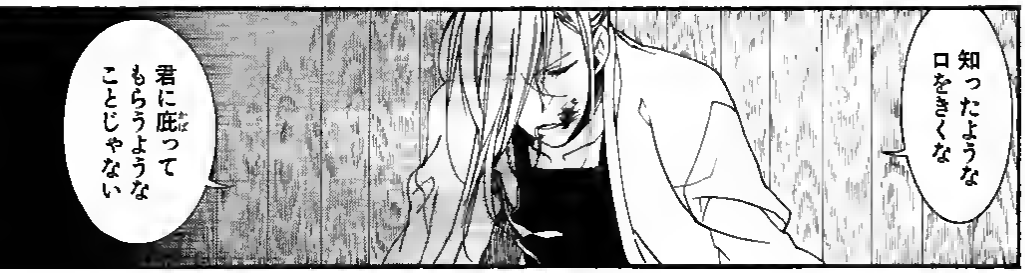
ま…

まあまあ
落ち着けよ
露草ァア
よろろろ
いや ますお前の出血を
落ち着かせろよ!!

お前だって見ただろ?
真朱ちゃんが空けたあの穴が
どういうもんだったのかをさ?
昔あれと同じ…いや
あれ以上のことが
起こったんだ
誰が梵天を
責められるんだよ?
だって…
露草

銀朱さんが意識を失ってたから
「その時」に実際何があったかは
俺もわかんないけどさ
梵天が何を思ったかくらいは
想像つくよ
周りは血の海で
銀朱さんと白緑さんは
相討ちで
目の前には地獄の底に
続く大穴
その中心で泣く子供
だけど
鶏
露草
梵天の後ろには
白緑さんの森があって
そこには数多の
妖達が
生きていて
この森を
露草を
お前に託そう

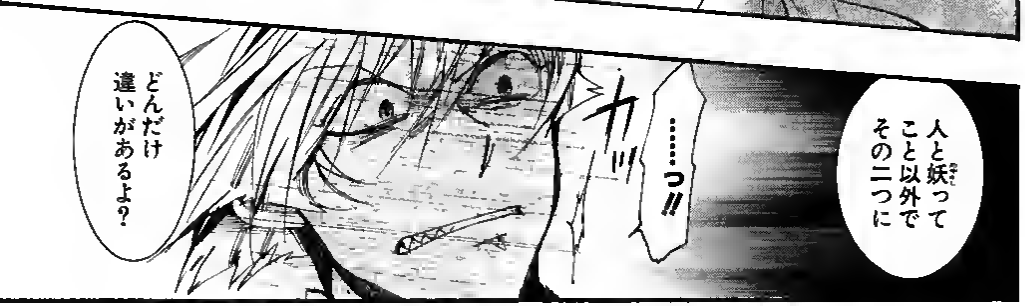
腕の中には
お前がいたんだ
白緑さんの
遺言を
守るには
他に術が
なかったんだよ
絶体絶命の時
救いの手を取ったことが
責められることなのか!?
……!
やめろ
!


知ったような
口をきくな
君に庇って
もらうような
ことじゃない

別にお前だけのためじゃねーよ
霞草の頭が冷えた時
後悔するだろうから
止めてんの
なっ
ぷいすこ

ちなみに霞草
悲しいのも
お前だけじゃ
ないしな
！

それこそ
「世界が壊れてもいい」って
思うくらい真朱ちゃんだって
悲しかったんだ
銀朱さんと真朱ちゃん
白緑さんと霞草

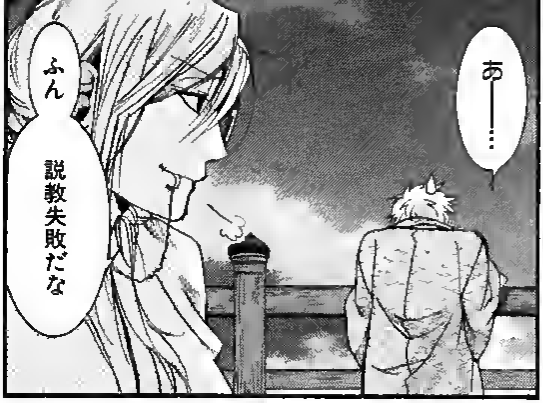

人と妖って
こと以外で
その二つに
……っ!!
どんだけ
違いがあるよ?

お前に
何がわかる
お前だって
人間だ!!

人間だけど友達だ
「人間」
「妖」

だけど
露草！
ケン
露草
わたし達、一緒だね
おう
うわっ
露草

霹草！


あ――…
ふん
説教失敗だな

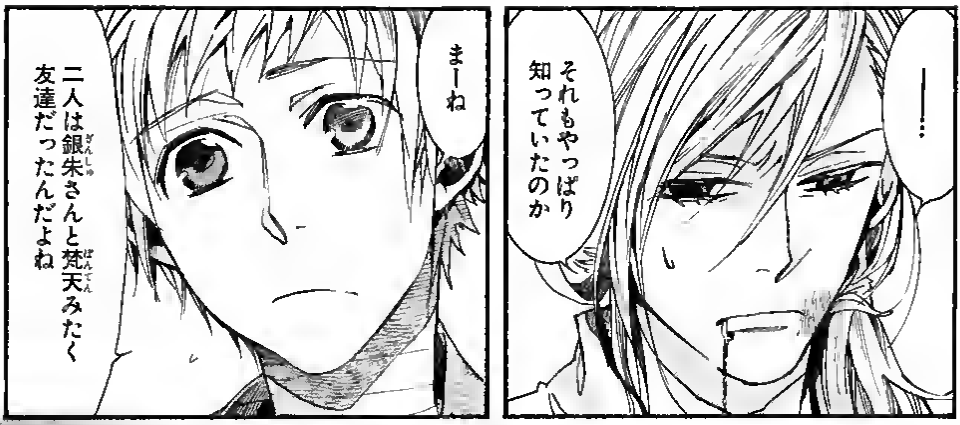
んなことないよ
気持ちの整理が
できたら 少しは
考えてくれるさ
霹草 優しいから

それにしても
色男が台なし
ですねぇ 旦那
ニヤニヤ
やかましい
寄るな
潰れ大福馬鹿

うるせ――
この三倍馬鹿がっ
！

ほっとした？
！

真朱ちゃんと霹草のこと
俺が言わなくて


――…
それもやっぱり
知っていたのか
まーね
二人は銀朱さんと梵天みたく
友達だったんだよね

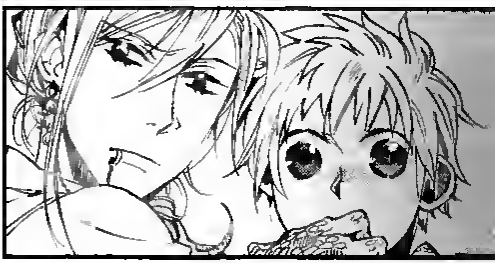
でもそれは帝天の再設定で
「なかったこと」になってる
だから露草が
そのことを思い出す
こともない
――…
もし思い出したと
しても すぐ忘れちゃう
とかなんだろーね
わけもわからず養い親を失い
人を憎みだした弟に

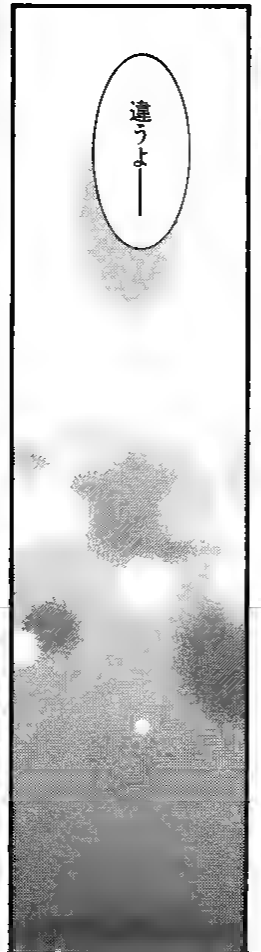
かける言葉がなかったから
口を噤み続けたんだろう
二つはこの世のため
帝天の意志のため
もう二つは
馬鹿だなァ
お前
露草のために

自分が憎まれ役買って出とけば露草の気安めにもいいだろうって？
キラキラ
余計苛つかせてんだよバーカ賢そうな顔して頭悪いなー

おーい
ぎちぎち
ぎちぎち

そんなに和やかにしてていいのかよ
頭は帝天っての手先なんだろ？
お前の敵の一味じゃん

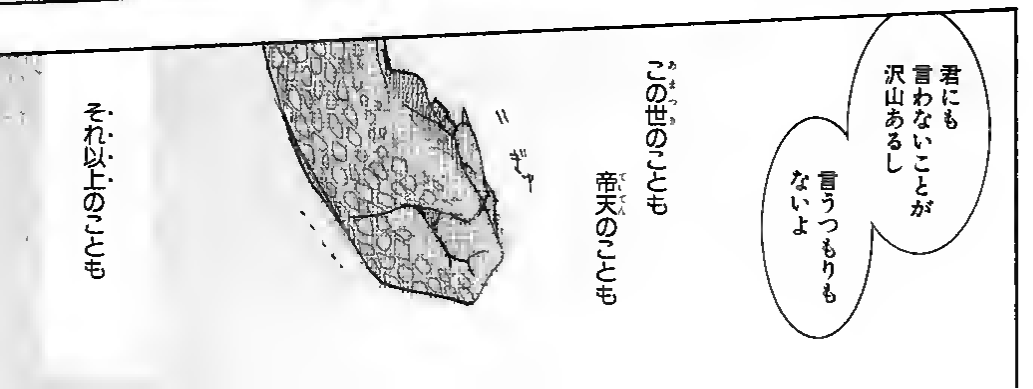



違うよ——

さっき言ってたじゃない「勝手が過ぎたから——」ってさ

昔
帝天に利用されたのを
利用して
今まで帝天の目をかいくぐって
一人で戦ってきたんだよ
むしろ一番味方だよ

そんなもんでいいのか？
いーの
いーの！
……
――俺は


君にも
言わないことが
沢山あるし
言うつもりも
ないよ
この世のことも
帝天のことも
ギュ
それ以上のことも

あ――いいよ
たぶん今色々
言われても
理解できんし
……

それに俺達の
会話は全部
帝天に聞かれて
るんだろ？

だったら俺の身にも
――お前の身にも
そっちのが安全だよ

俺が自分で何かに
気付いたら聞くから
瞬きの回数か
なんかで答えて
くれりゃいいさ

そんくらいなら
バレないかもだろ？

そりゃ
無理
じゃね

やっぱり
そうかな

呼吸がしやすいんです

貴方とこうしていると
呼吸がしやすいんですよね

何故でしょう？

すー

ふ

はっ

〜っ

言えないことが沢山ある

聞きたいことも沢山あるけれど

言わない

聞かない

は

は

それでも

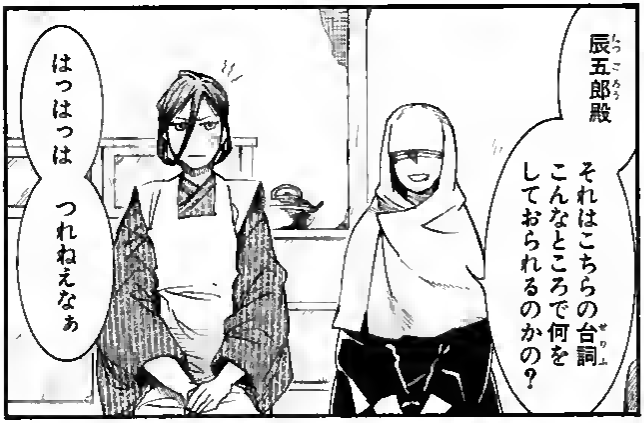
は

嘆みすぎて

息の仕方も忘れていたよ

ハナニ
ハキーン

こりゃあ珍しい顔を見た
お天道様の下であんたに会えるたぁな


辰五郎殿
それはこちらの台詞
こんなところで何を
しておられるのかの？
はっはっは
つれねえなぁ

あんたを追ってはるばる
ここまで会いに来たのさ
お緋ィさんよ
気のない素振りは
それくらいにしといて
くれや

ざわ
ざわ

ほ
ほ
ほ
んなキラキラ
辰五郎殿こそ
本当の「想い人」は
他におられるのであろうに
いけない方だの

——ああ

——…最近あんたらが足繁く
こんな似つかわしくねぇ場所に
通ってくれたお陰でそいつのこと
やっとわかったぜ
想い人の正体は
ここの長屋に
住んでるっつう
奇妙な男だ
「掏」って
呼ばれてる
そいつは
あんたらの
なんなんだい？
あんたら「裏稼業」の者らが
つるんで今度は何を企んでる？
教えちゃくれねぇか

そうでなきゃ
本人に聞かせて
もらうぜ？

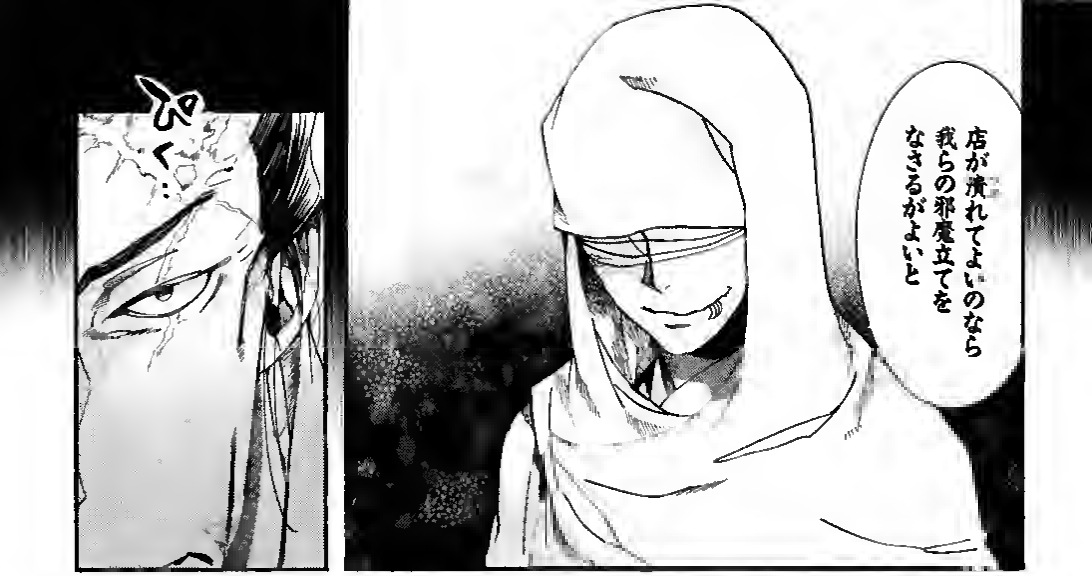
……
将軍
後見職殿の
命令かの
ははは
慶喜さんの
頼みさ

市井で気安く
その名を呼ばれちゃ
困るぜ　お緋ィさんよ
それに…

店の主人に雇われてた丁稚の
小間使いが　番頭にナシもつけずに
店の経営に手出ししていいと
思ってんのかい？
そりゃ筋違いってもんじゃねぇか？

何を…！
スッ

慶喜殿にお伝えを
「店の経営権」を争う間に

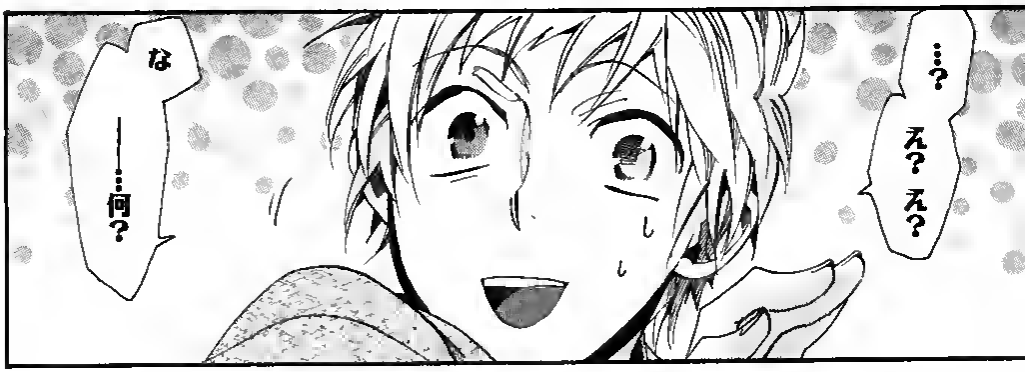

店が潰れてよいのなら
我らの邪魔立てを
なさるがよいと
ひぐ…

――…あくまで隠しごとを
するつもりってわけかい
お…おい なんか
雰囲気やばくね？
ああ…
コロコロ
さて
なんかわけ
わかんねー
けど
狙いは
祷みてーだし
留守で
よかったぜ
じゃねえと
どんなことに
なってたか…

ガ!!
ただいま――!!

と
わっ
鴇(とき)!?
ん?

ほ
ぉ
ん?


…?
え? え?
な
――…何?

東京卍會
第七十夜
末黒野の黒煙

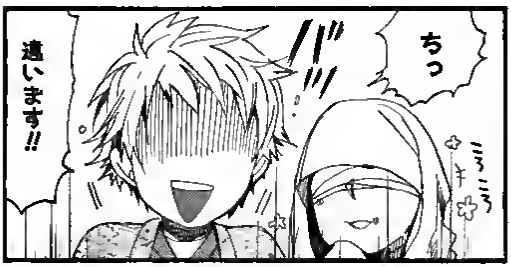
は
は
は
は
なんで戻って来ちゃうかなあああ？
はあああ
君達
言いたいことがあるなら口に出しましょうね？
！
はは
その通りだな

そいじゃあ
遠慮なく
言わせて
もらうぜ
俺ァ新門辰五郎つう
けちな野郎だが
坊主
オメェさんが
家茂の坊っちゃんの
懐刀の「掏」ってやつ
かい？

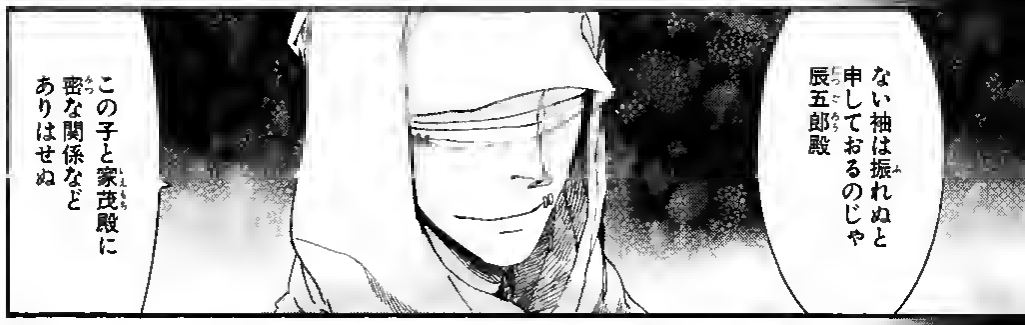
は？
家茂って…
誰だそれ？
ふとこうがねえ
何？

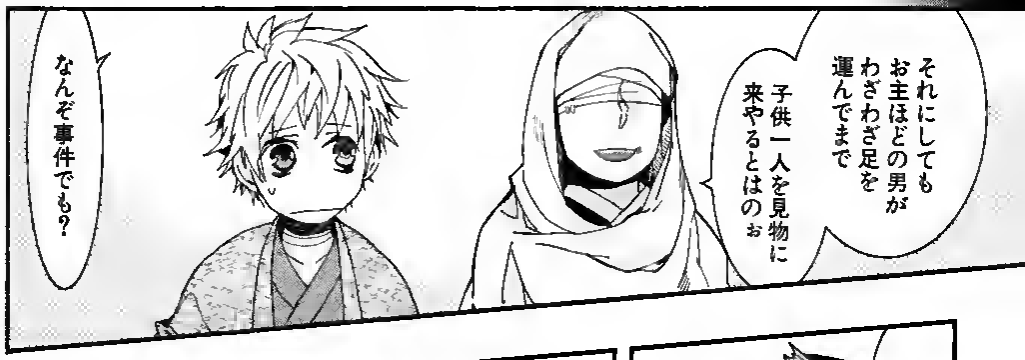
ひえぇぇ
ふふふふ

懐刀＝内密の腹心の部下
家茂＝上様


ちっ
こうこう
違います!!

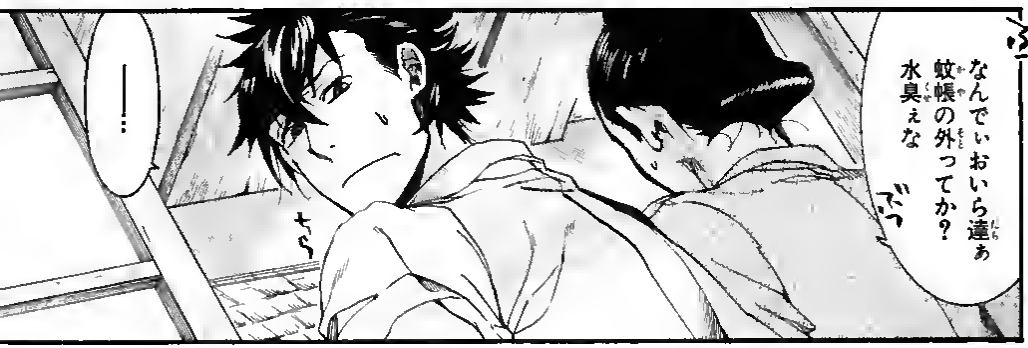
はは 今更
隠し事はなしに
しようや
こちとらネタは
上がってんだ
腹割って話そうや

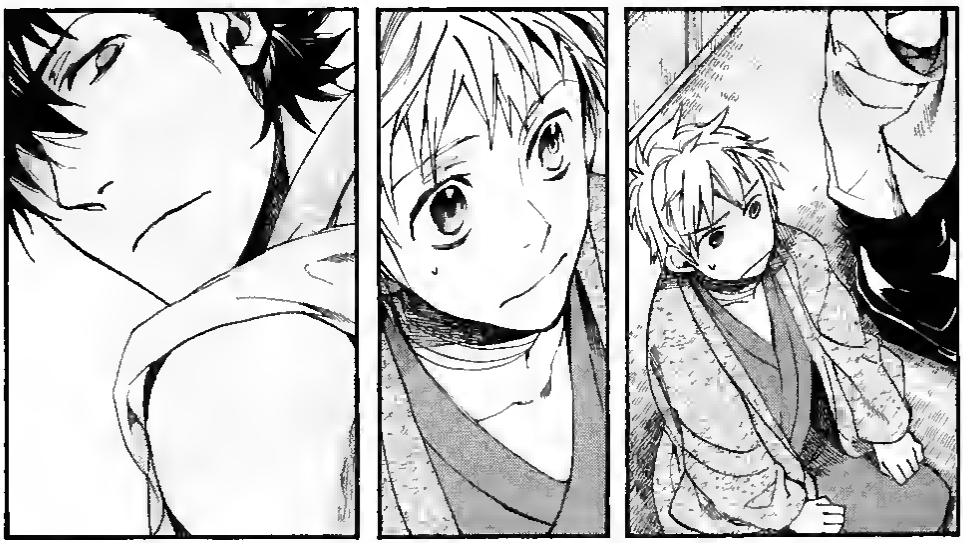

ない袖は振れぬと
申しておるのじゃ
辰五郎殿
この子と家茂殿に
密な関係など
ありはせぬ


それにしても
お主ほどの男が
わざわざ足を
運んでまで
子供一人を見物に
来やるとはのぉ
なんぞ事件でも?

……
ちら

兄ちゃんら悪ィが
こっから先ぁ
内輪話
関係ねぇなら
ちっとばかし席ぃ
外してくれるかい
え
あ
もぞ
は
はぁ


なんでぃおいら達ぁ
蚊帳の外ってか？
水臭ぇな
ぶっ
ぶっ
ち
…！



お
俺も
関係なら
ある

紺!?

俺アその
坂守神社で
そいつらのためにも働いてたわけだし…

へぇ神社関係者なのかい？
なら兄ちゃんにも話聞いて
もらうかね 残ってくれるかい
のそのそ
おっ
おう
――紺ぇ？
……
てやんでい
だったら
俺だって
関係あらァ!!
ムキ

へ
平八さん!?

だろ!!
俺ぁそいつらの友達だレ!

あんたらをここまで
案内した責任もあるレ!!

何よりこの
話し合いの場所!
長屋の大家代理は俺
なんだからなぁ!!

おいらを話し合いから
つまみ出したきゃ場所を
移してくんな!!

まぁ移したって
俺ぁ構いやしねぇん
だけどな

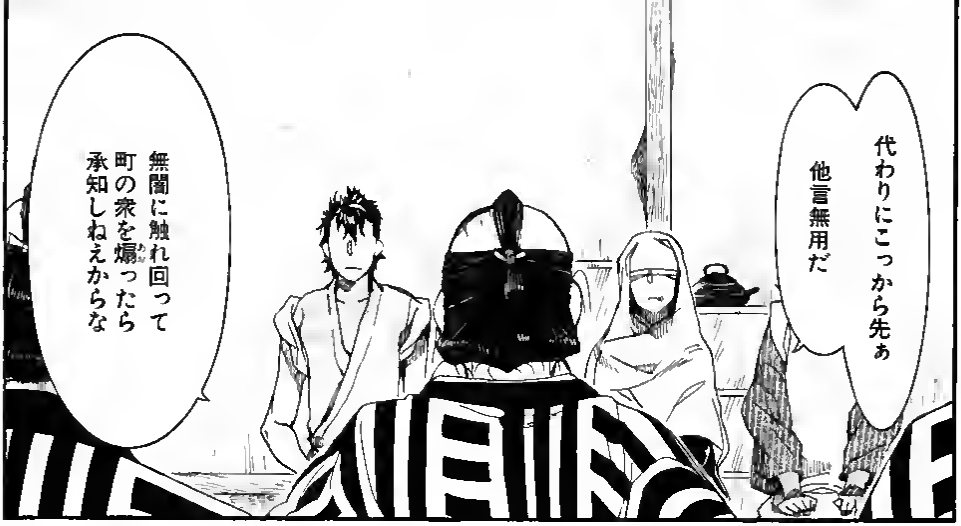
え

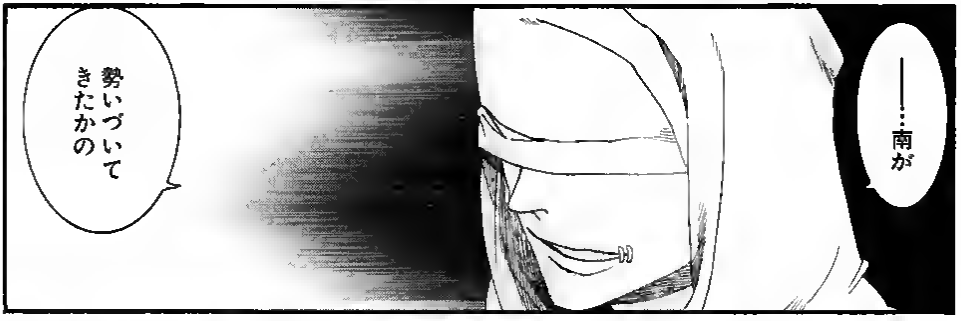
がんっ

かっかっかっ
けどまぁそれも
面倒だ

仕方ねえ
兄ちゃんも
混じんな

ち


代わりにこっから先ぁ
他言無用だ
無闇に触れ回って
町の衆を煽ったら
承知しねえからな


……南が
勢いづいて
きたかの

流石話が早えな
その通り

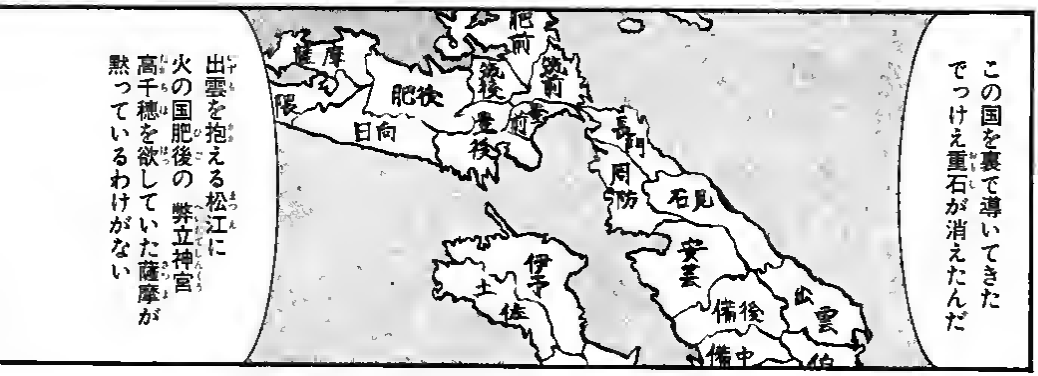
あんたら
坂守神社を
どうしやがった?

坂守神社が崩壊したとの報せが全国を巡ったせいで
江戸幕府と朝廷の関係も崩壊しちまったぞ
朝廷って…
なんとなくきいた覚えはありますけど…？
帝がいるところだよ
帝は一応幕府の上位に位置してるが 実際はただのお飾り…
両者の確執は深い
ぼそぼそ
それでも表面上は均衡を保っていられたんだが――…
神性を重んじる朝廷側を今まで抑えていたのは
坂守神社の威光だ
それが文字通り瓦解しやがった

それどころか
かつての鎮守の森を中心に
妖が溢れ出て来てる
そうじゃねえか

んなことになっちゃ
国のどこにも
神社の崩壊を
隠せねえ

今やどこの藩行っても
この話を知らねぇ
もんはいねぇぞ



この国を裏で導いてきた
でっけえ重石が消えたんだ

出雲を抱える松江に
火の国肥後の 弊立神宮
高千穂を欲していた薩摩が
黙っているわけがない

次は自分達が
その役目を任い
これを機に
本懐を
遂げようと
狙ってるって
寸法だ

本懐…？

倒幕だよ
を組

日が増すにつれ
事態はどんどん
きな臭くなって
きてる
だっつうのに
陰陽寮も
家茂の坊ちゃんも
だんまりだ
慶喜さんが焦るのも無理ねえ
お前ら一体
何を企んでやがる
この国に火種ばらまいて
後の始末はどうつける
つもりだい？
ほっ
ほ
ほ
ほ
!?
ほ
ほ

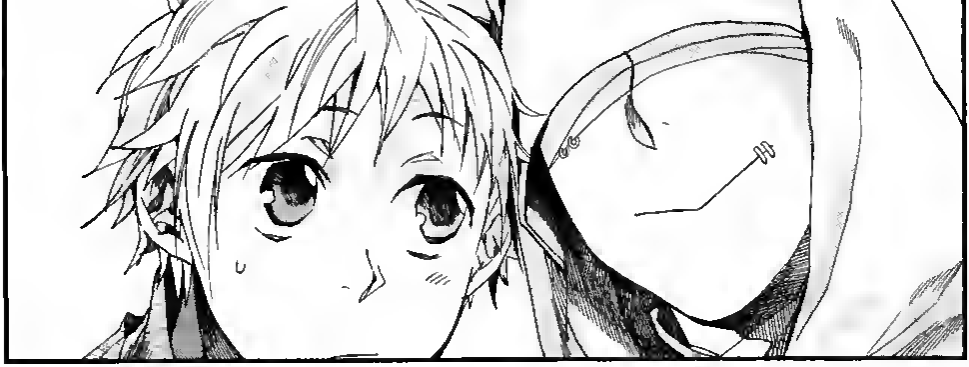
まるで我らを責めるような物言いをなさる
そなたらはむしろ
妖や神などという戯言ばかりを繰り返す厄介なコブが取れた——とお喜びなのでは？
ものの け を信じておらぬ者にその危険性を説いたとて理解できようはずもない
我らを不審がるそなたらの言も十二分に理解できる
そういう聞かん坊に婆の小言はさぞ五月蠅いだろうがよくお聞き

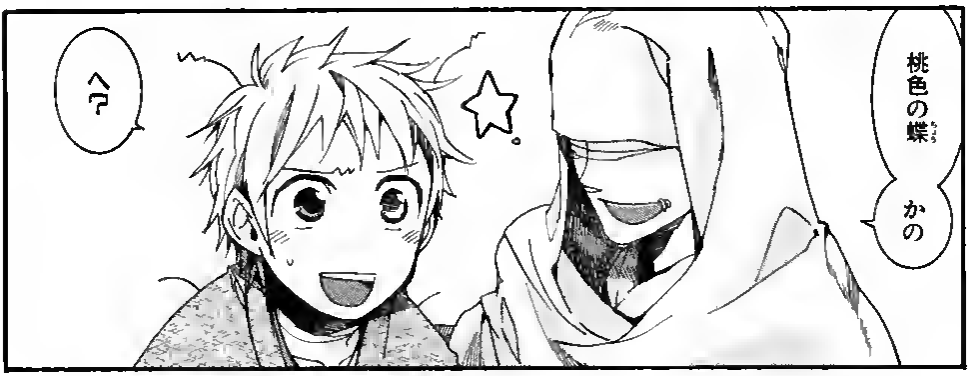
佐々木殿が
佐々木殿で
ある限り
陰陽寮は
幕府のためだけに
在り続け
我らもまた
陰陽寮のため
働き続ける
それは誰が
幸いている
幕府であっても
同じこと

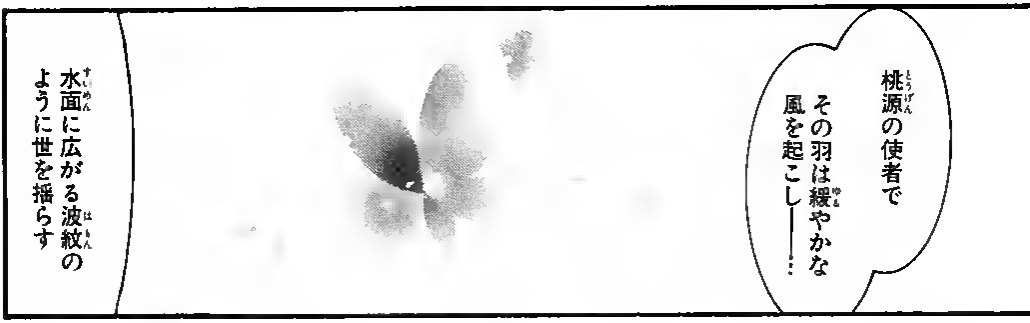
だからむずがらず
下の子に粉を
かけてくれるな

その坊主は――…
一体何者なんだい？

あんたらも家茂の坊も何度も
「そいつ」のために動いている
ただの近所のガキじゃ
ねぇだろう？




桃色の蝶
かの
へ？


桃源の使者で
その羽は緩やかな
風を起こし――…
水面に広がる波紋の
ように世を揺らす

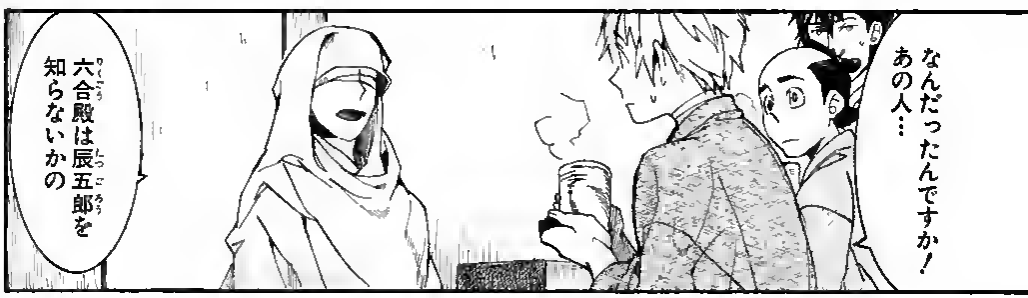
ただし蝶はか弱い
いじわるすると
死んでしまう
故に大事にしておるのだ
――ふん

学のねぇ俺にゃわからん表現だ
おや
今日のところはさっきの言葉を土産に退いとくぜ
また来らぁ

ほっ…
おっと ついでに後一つ
へ

緋イさんよ
行きつけの茶屋がうめぇ団子出すんだ
次ァ二人でそこで会おうぜ

はああ
とりあえず一難去った…かな
ドッ
ざぁぁ


なんだったんですか！
あの人…
六合殿は辰五郎を
知らないかの

はい
ええ
ええ
えええ
ぴょろろ
鴉イ…お前って
奴は本当…
豪気だよなァ
えっへん
そうかなァ
いや ほめて
ねぇぞ

辰五郎は江戸では名の通った大親分だよ！
それってやくざ…!?
ほほほ
なぁに あれ自身はそう害のあるものではない 愛嬌のある男伊達よ
だが問題はあ奴の後ろにいるものでの
ああ さっきのけいきとか言う…?
慶事の慶 歓喜の喜 慶びと喜びを二重に重ね
親しき者に慶喜と名乗り公では慶喜と呼ばれる
一橋慶喜
今や家茂殿を凌ぐほどの発言力を持つ幕府の要人じゃ
将軍以上の発言力!?

俺ぁ考えんのやめたっ！ 後は頑張れ！
ぎゃあ
ぎゃあ
あっ――!!!
平八さんいやあ見捨てないでぇ
純にぴぴろう
そえよう!!
無理言うな俺ぁ学ねぇんだ小難しい話ァ苦手だ――!!

――さっきの話はつまり
倒幕派の連中と帝が俺ら幕府側の人間――ひいては江戸に
戦を仕掛けてくるって話でいいのか？
うむ

表では倒幕派と佐幕派が
火花を散らし
幕府内は慶喜殿派と
家茂殿派の内部分裂で
一触即発状態
ほほほほ
裏では妖と夜行が
人と対立し 六合殿の下
天座と陰陽寮が
結束するも
未だ一触即発
状態…
表も裏も
とんだ
大騒ぎだの

ひひひ 絆禊さん
わわわ笑ってる
場合ですか祖祖
ぶるぶるぶるぶる
怖い怖い怖い怖い
なんの
むしろ笑って
いなくては

無闇に動揺し
近々戦ありなどと
江戸の民に知れてみい
町は混乱で
妖にも倒幕派にも
呑まれ易くなる
ここはどんと構え
笑うが吉よの

辰五郎はまたすぐに来やるはず

その時もしたった一人であったとしても

気圧されぬようにの

あやつらは妖の実在を知らぬ普通の者だ六合殿のいつもの言では説き伏せられん

妖が見えないから本当にいるのだと思っていない人達

そういえばそういう人も世の中にはいたのだと

今になって思い出したな

そういう人達にとってみれば坂守神社も陰陽寮も——この俺もなんの意味もない存在だ

は——…

夜行のことだけでも手に余るっつーのにこの上 人間同士の戦いかよ…

あんまり考えんなよ

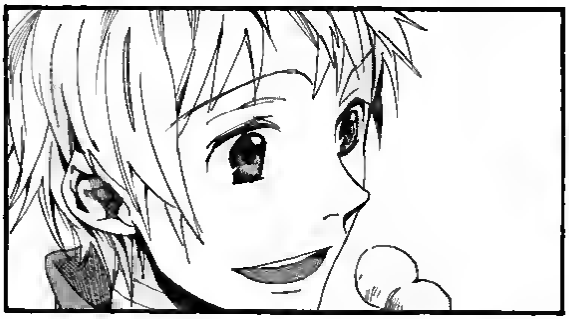
コト

紺ん
それとさっき
言われたろ
あんまり物騒な
ことは外で口に
すんな

へーい

ほほ
——聞かなきゃ
よかったよな
あんな話

失敗したなお前
あの時 外出てりゃ
よかったのに
わい男子
いただきまーす



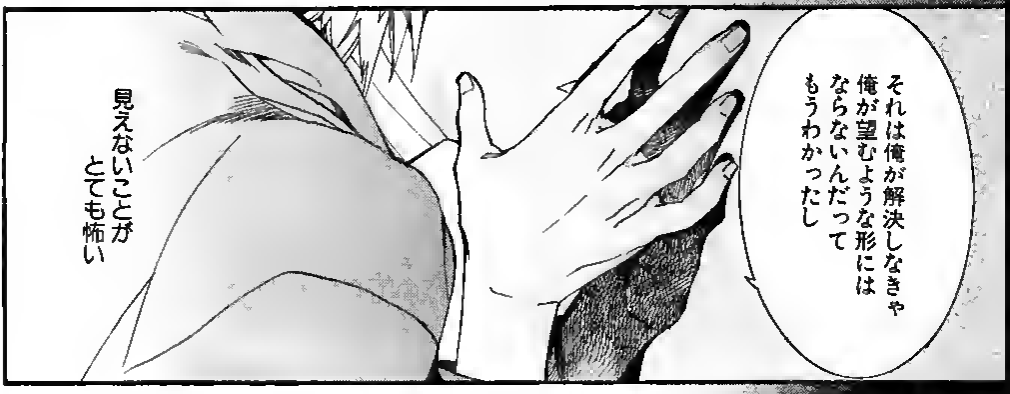
お前最後にちゃんと寝たのはいつだよ
え
ギク

へらへら平気そうな面してるけどここんとこまともに眠れてねーだろ？
ばれてないと思ってたのか？
今日はまた一段と笑顔が全開で逆にこえーんだよ
――…
そ そんな目に見えてひどい顔してる？ 俺…

顔に
出てねぇから
余計
気持ち悪い
う
青くまはあるけどな
――…
露草は妖だから
寝てなくても気にしないで
くれてたんだけどな――
あーあ なんでバレるかな
かっこ悪ィの
禍?
俺さぁ

また自分が気がつかないうちに世界が変わってしまうかも

また 見失うかも



たった一枚の
扉の向こうには
自分の知らない世界が
忍び寄っているのかもしれない

おみっちゃーん
悪いんだけど
納戸から去年の
大福帳取って
くれる――？
はーい

ガタガタ

よいしょっと

ヤメテヤメテヤメテ

第七十一夜

麦踏み／朱（あか）

紅さーん
来ましたよ——
ざわ
ざわ
六合さん！
もう動かれて
大丈夫なのですか？
はい
ぴんぴんですよ！

紅さん？
あちらは…
ひそ
あ
あちらは兄の
ご友人です
本日は兄が私用で
お呼びしておりまして…
⁉ 異人じゃないか
大丈夫なのかい？
あんなのと懇想で⁉
？

その隣の男も
いかにもな…
ねえ
ひそ
ひそ

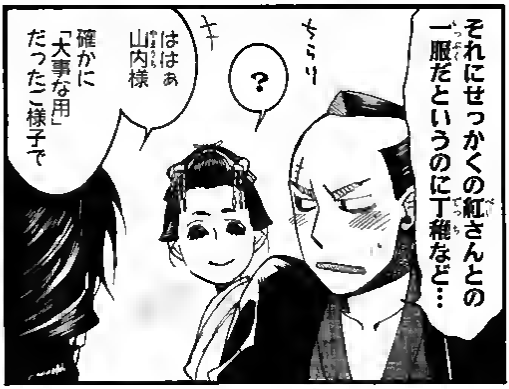
あ
あの——
俺は…
お二人共

ああ見えて
しっかりとした方達
なんですよ
紅が保証
いたします！
では
紅さん
どちらかが
あんたのいい人かい？
しゃらうう
うん
いいえ
全くそのような
ことはありません
ドス
だろうねぇ
でもね紅さん
あんたがそんなん
じゃあねぇ
そうだよ
おやおや

何やら姦しいと思ったら大奥様方からいつものですかい
あんたら店の看板にあまりそう絡むもんじゃねぇよ！
てすねぇ
朝顔の墓たとてもう少し遠慮ってモンを知っておりやすよ
ざわ
ざわ
兄上
おやまお言葉だね八丁堀のと昼行灯
そうさ私らは心配してんだ
いくら綺麗な看板だとて手付かずのまま古くなるんじゃあまりに哀れってもんじゃないかい
!?
!?
??
あんたらの言いたいこたぁよくわかったが今日は引いてくれ
これから俺らは大事な用があるんでね

へい
三人前だ
まいど
菓子一つ
食いに行くのに
「大事な用」たぁ
よく言ったもん
ですよ 旦那
やかましい
ならば貴様は
食うな!
ええ
そりゃ殺生な

それにどうして
あの二人までついて
来とるのだ!?
わーいおごりじゃー
だってあの場に
いたし…
追い返しちゃかわいそう
でしょ?
遊びに来ているわけ
ではないのだぞ!?


それにせっかくの紅さんとの
一服だというのに丁稚など…
ちらり
?
はははぁ
山内様
確かに
「大事な用」
だったご様子で

え
ええい!!
ち
遣うわい
馬鹿者!!

私はここいらで
おきている殺しの
話をするために
来ているのだ!!

やましい目的と
勘違いするな!!

ゴホン

ここ十日ばかりの間に
俺の見回り区でも
三件

他の区も加えりゃ
二十件以上不審な死に方をした
仏さんが出てる

皆 首を
刎ねられたり
体中に穴あけ
られたり

尋常じゃねぇ
死に方だ

それに殺し
だけじゃない
神隠しに遭った
なんつう報告も
来てるんだ

武家からの届け
また出てねぇが

こりゃ体面を
気にしてのこと
だろう

本当のところは
武士も町人も
区別せず
的になってる
はずだって
俺達ぁ
読んでる

つまり今この江戸にゃ
そんだけ無差別に
殺しやかとわかしをしても

俺達 尻尾も
捕ませねぇ

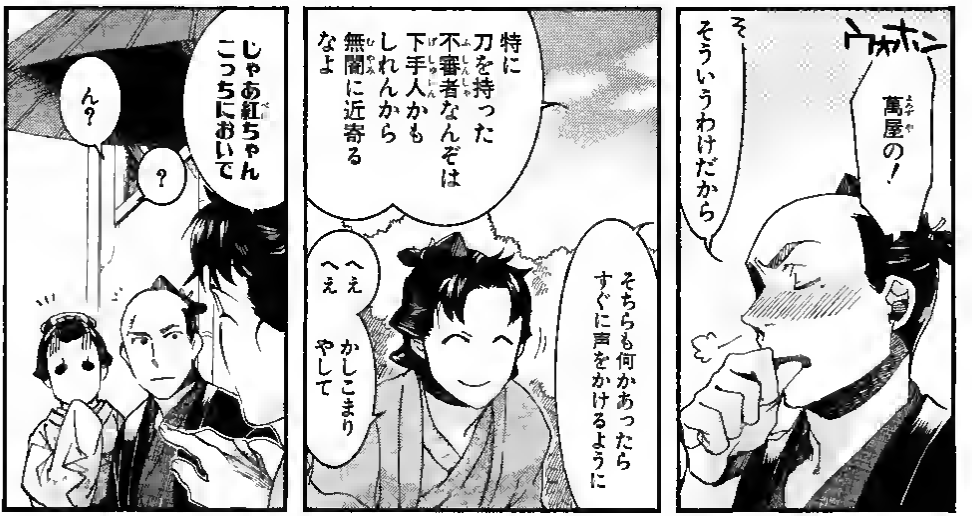
性質の悪
悪党が
隠れてるっつう
こった

へえ
怖や怖や
だからよ
萬屋の
なんでもいい
心当たりを教えちゃ
くれねぇか
上じゃ
倒幕派の連中が
やってんじゃねぇか
とか
いやその実
裏で糸を
引いているのは
幕府なんたとか
不毛な
言い合いで
話にならねぇ
……
なんであたしに
聞くんです
そういう調べもんは
お役人の仕事
でしょう?
……
貴様はやけに
耳が早いし
妙なつれも多い
ようだから
おれら?
俺の知らん話も
聞いているかと
思ってな
おやまぁそらぁ
期待を裏切るようで
申し訳ないですが
もん
あたしゃ山内様以上の
こたぁ知りやしませんよ

ただ――…寄合や
お客さん方の話じゃ…
死んだり消えたり
した奴ぁどいつも
「一人で」「人目のない」
「暗所」「曲がり角」「蔵」
そういった言葉に
縁が深え御仁
ばかりだったようで
――…
成程
確かに
そうだな
引きずられ
道の角に消えてく
子供の足先や
けとまァ 肝心の
下手人の姿を
見た奴ぁ一人も
いねえんだが…
蔵ン中で
血を吹き出しながら
倒れてる仏さんを
見たっつう話もある
怪我だけで
済んだ奴も
正気じゃなかったり
目ぇ覚まさ
なかったりでな
ろくに話も聞けや
しねぇ
――…
恐ろしい
お話ですね
!!
あっ
やっ
これは失敬
ついべらべらと!!
女人に
お聞かせする
ような話では
ありません
でしたな!!
あら

そのようなこと…
ご心配りませんわ
他ならぬ
山内様のお話ですもの
恐ろしいお話とて
お聞きできてうれしゅう
ございます
べっ 紅殿っ…!!!
そ
そそそ 輩などの
話でよろしければ
いくらでも…!!
あら 山内様
ではまた事件のお話
詳しくお話して
下さいますか?
勿論!!
進展がありましたら
いの一番に!!

まあ
うれしい
あれって…
お手軽
情報源
ってとこ
だな…
…だよね
怖え女
だぜ


ウォホン
萬屋の!
そ
そういうわけだから
そちらも何かあったら
すぐに声をかけるように
へえ
へえ
かしこまり
やして
特に
刀を持った
不審者なんぞは
下手人かも
しれんから
無闇に近寄る
なよ
じゃあ紅ちゃん
こっちにおいで
ん?
?

だって刀を持ってる
不審者には
近寄っちゃ
ならねぇんでしょ？
ドスッ

山内様に紅ちゃんの隣は
十年早いですよ
にーっ

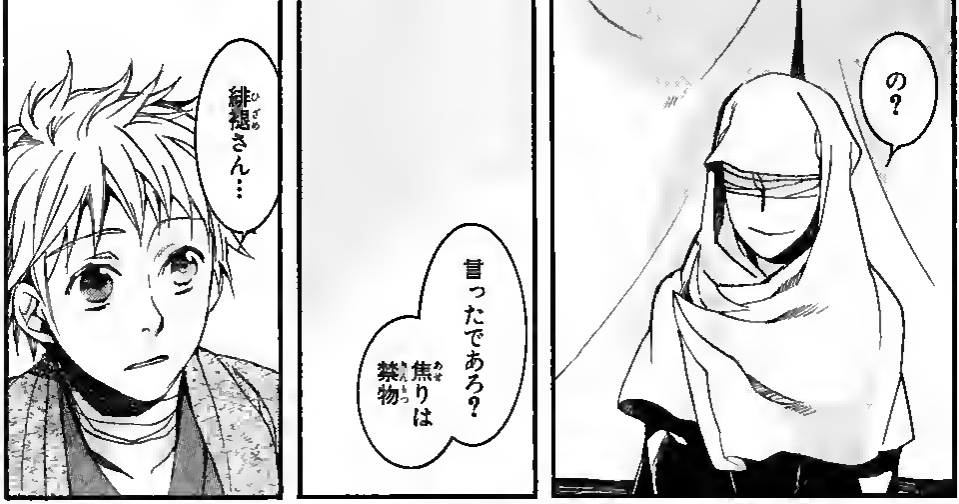
ぷるぷるぷる

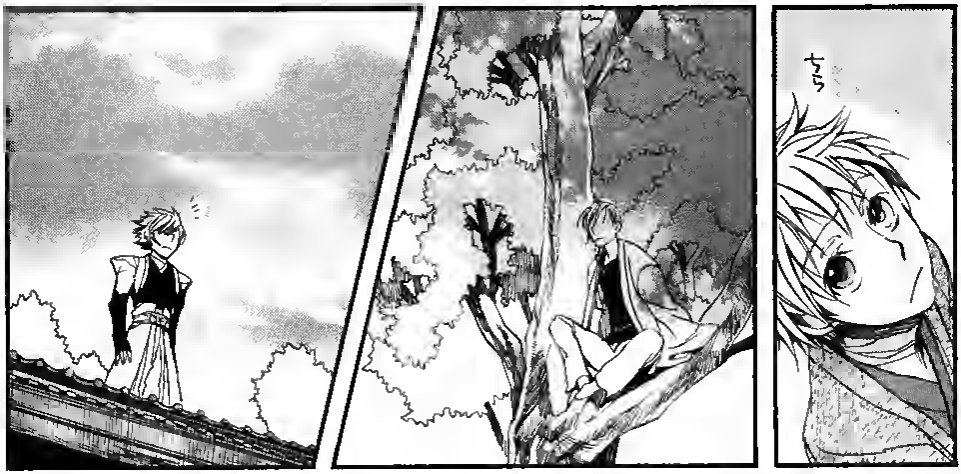
ばっかもーん

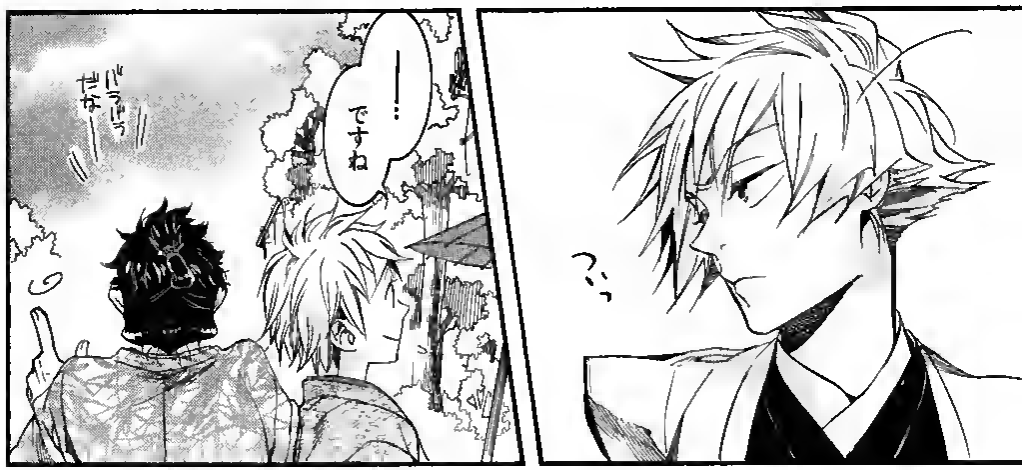
——というわけだ
話ぁ聞こえてたかね？
皆さん

おうよ
聞こえてたぜ
そっちも
聞こえてた
——？

ああ
もう降りてきていいよ？
話しづらいし
いや流石にね
そこまではよしておくよ
はぁ？
なんでだよ
六合殿よいではないか
急に間を詰めようとするのは却って場を悪くする
まずはこの距離でよかろう


の？
言ったであろ？
焦りは禁物
緋想さん…


ちら


…ですね
バッバッ
だな

露草――
お前も団子
食うか――？

……

なんだあいつ

何拗ねてんだ？

――

さて

先程の
同心殿の
お話じゃが

あれは間違いなく
妖のしでかした
殺しだの

妖――…
ですか

うむ
間違いない

一致するでの

陰陽寮の
独自の調べで
妖が関係したと
思われる事件は
ここいらで三件
範囲を更に
広げると二十三件

なんだ じゃあ
わざわざこうして
集まってまで同心の話
聞くことなかったじゃねえか

な？

へ？
そんなことはありゃせん
今の話は重要よ
問題は
妖と「一切関係のない人間」がどれだけ一連の事件を認識していて――…
どのような納得の仕方をしているかでの
事を怪異だと思っているならばまだよいが
――…

……その通り
人々の狂乱は妖の狂気を増長させてしまうでの

さすが天座の主
話が通りやすいの

……

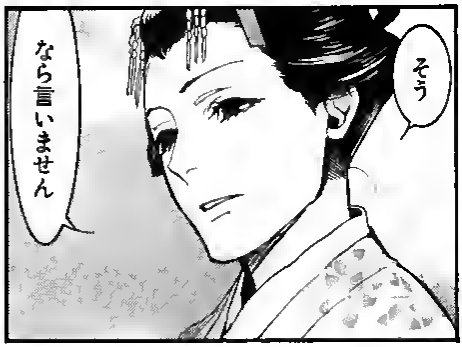
政治的もしくは
実在する者が起こした事件であると思われていた場合
人心は荒れ
ひどい混乱を起こしかねない

……何を
どこまで知っている
そちらこそ
ふ
不穏っ
バチ
バチ
バチ
あ
お団子追加お願いしまーす
――あのなぁ
掏
ガタッ
ここぁ本当の団子屋じゃねぇんだぞ
がっつくんじゃねーよ
バン
わかってるけどさ――

すまんすまん
六合殿
ぽうっ
睨み合いは
無粋であったの
今のは
なしじゃ

ねえ
ドキー
ちっ
お前っ…
いつの間に
ドキ
ドキ
ちょこーん
お礼を
言っておくべき
かしらと思って
？
さっきのアレ
石を投げたの
貴方でしょう？
ーっ

――ああ
ありゃてめぇのせいで鴇が足留めされてたから――……

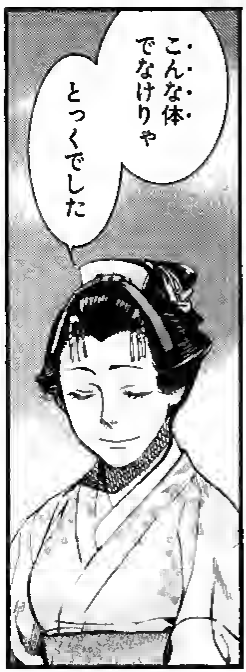

そう
なら言いません

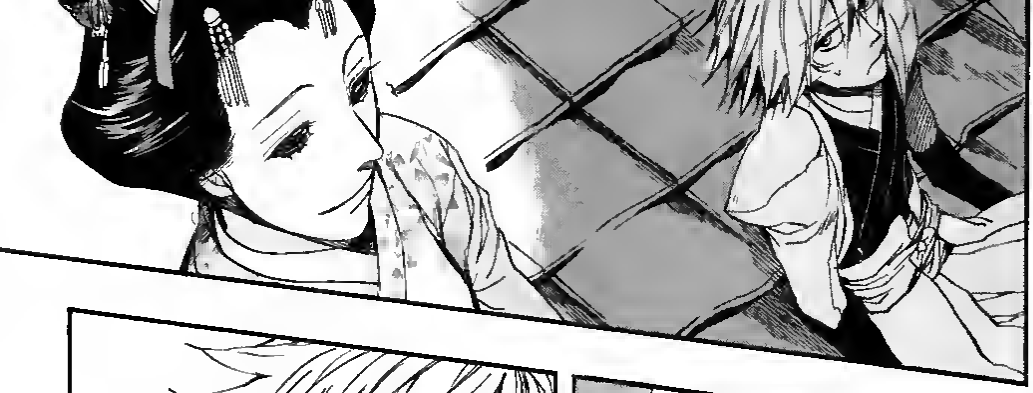
でも

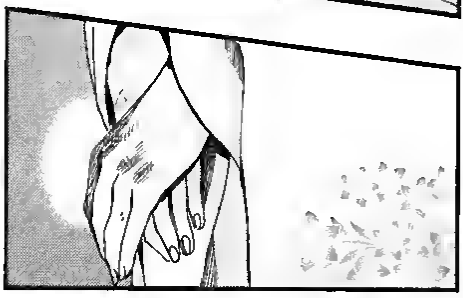
助かりましたので勝手に感謝はしておきます

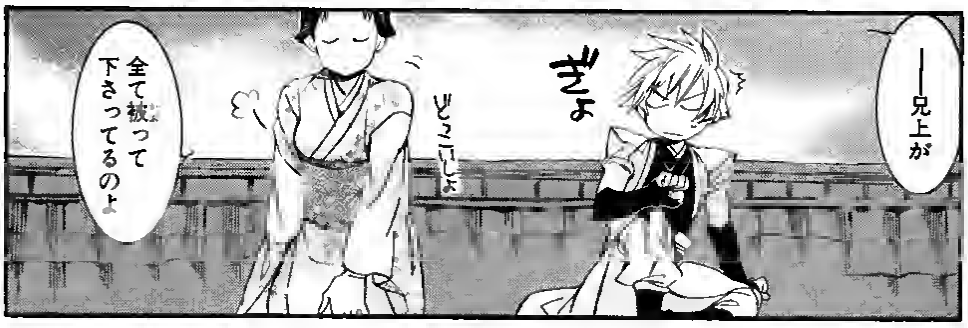
変な女

嫁の貰い手がねぇわけだ
あら失礼ね


こんな体でなけりゃとっくでした

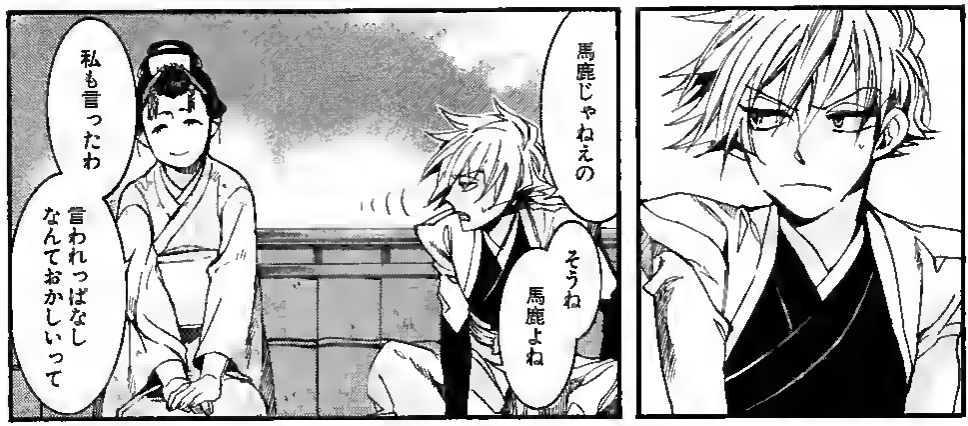





――兄上が
ぎょ
じっこにしよ
全て被って
下さってるのよ

私が嫁に行けず
家で働いているのは
兄があれだけの
道楽者で
うつけ者だから
だって

妹の縁談を
潰して回って
いるんだって
陰口
全部


馬鹿じゃねえの
そうね
馬鹿よね
私も言ったわ
言われっぱなし
なんておかしいって

どうして黙っているのって
そうしたら

それが兄の務めだからねって
お前は何も知らなくていい
悪いものは全部お前には寄らなくていいって

も読めず
出せない
意天の
怒りに触れたの
だろうよ
頼む
お前には
言っても
わからない

でも本当はそんなの
全然うれしくない

そう思いません？

そうだな

今
事態は
最悪な流れに
なってきておる

大穴から溢れ出た
妖共は日に日に
濃さを増していくため
今や実体に近く
変化してしまっておる

人を救って
妖は救わぬというのなら
あの狐はどうなのだ

ろくろ
救う救う
白狐の事か

それを探る我らの動きが
一橋公の疑心を
煽ってしまい――…

辰五郎を
動かして
しまった

道の辰三郎

その間にも妖共は
只人を無差別に
襲っていくから
役人にも知れてしまい
上に町の噂も
伝わってしまった

「あの
大親分
新門辰五郎が
関係している」とな

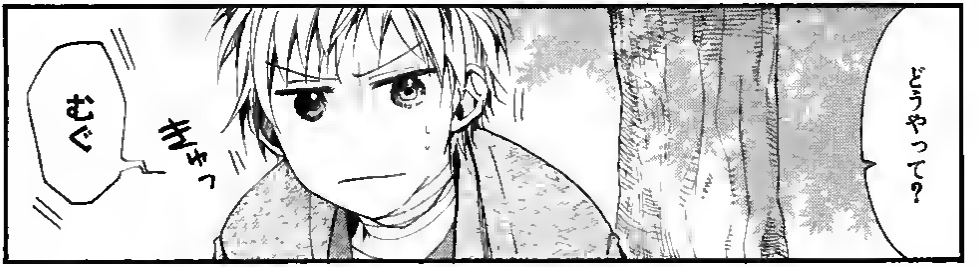
「なれば江戸の一大事では」と
役人を中心に疑心は広まり
人心は荒れ 気は乱れる

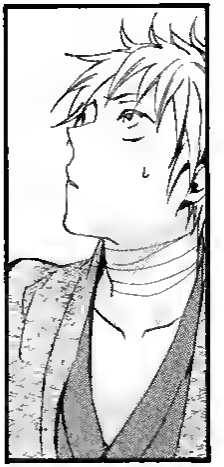
それにより 化物道の
妖共はまた力を増す

妖は
人の乱れた心
狂気こそを
喰らうもの
このまま負の連鎖が
止まらずに――…
それこそ倒幕派が
江戸に攻め入ろう
ものなら
恐ろしいことになる
妖ばかりの
せいにするな！
夜行の奴が
妖を利用してんだよ！
――…そうさの
狂気に捲かれた
妖も哀れ
妖に捲かれた
人も哀れ
じゃの
――
止めます

どうやって？
くっ
うぐ
びくびく

原因は
はっきりしているん
ですし
夜行を倒して
真朱ちゃんを説得します


どうやって？
むぐ
きゃっ



真朱ちゃんの説得は――…
考えがあるので
今は任せて下さいとだけ
言っておきます
夜行を倒す方法については
俺にはまだ見当もつきません

――でも
梵天と
緋褪さん

二人には「俺を使う」術がわかっているはずだから
全く道がないとは思っていません

ほ
ふん
よくもまあ
そこまで
堂々と
人任せ
発言が
できたものだね
ほほ
ほ
ほ
あ
いや
それは
別に

二人に丸投げって
わけでなくて
方法さえ
わかれば
自分で――…
わかってるよ
君の覚悟の話だろう

ニヘラ

俺を武器にする術を！

だから緋禍さん教えて下さい

第七十二夜
麦踏み／碧
行きはよいよいかえりはこわい
こわいながらも通りゃんせ

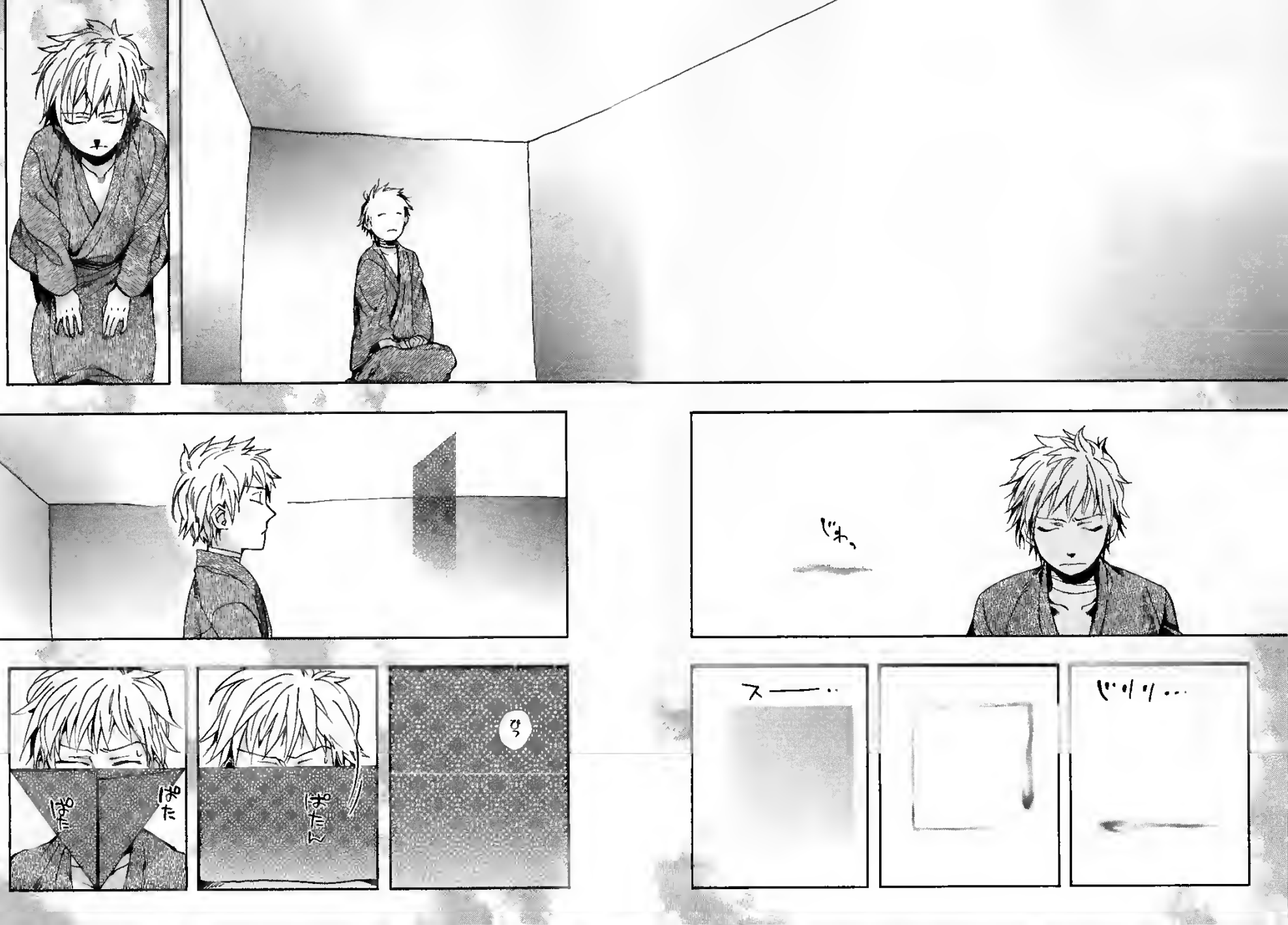
第七十二夜
麦踏み　碧

ぶるぶるぶるぶるぶる
イヤだイヤだイヤだイヤだ

やめ…
やめろ…
やめてくれぇっ
俺は違…
うわあああああ
ズリッ
ぶっ
殺せ
ぶっ
ズズ…
…を
ズズズ
…倒
ズズズ…
維新を…
ぶっ
ズズ…
ぶっ
倒幕じゃ…
…?

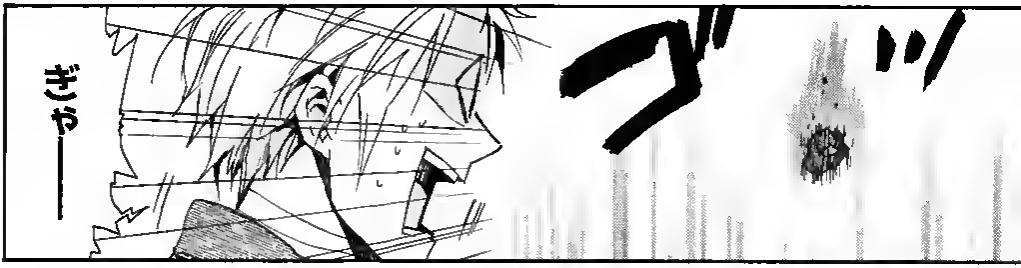
ひっ…
う
あ
長州藩が危険だ
倒幕など許さん
浪人共はこの江戸にはいらぬ
いらぬ
いらぬ
いらぬ
いらぬ
いらぬ
いらぬ

切って捨てよ!!
ねぇ
旦那!
古河屋長屋の件
下手人上がりやしたが
ありゃあいけやせん
心がどっか行っちまってよォ
ガヤ
おおーい!
大工町見廻り行った奴…話ィ聞かせてくれや!
ねぇ
番小屋の奴が言うにゃ 朝にゃ血の海だったってぇ話だよ
おい!!
また土左衛門が上がったらしいぜ
なに
誰か手の空いてる奴いるか?
いねぇすよ
ガラ
おおい! 皆来てくれ 通町でヤクザ者が刀振り回してやがる!!
ざわ
ちっ
またか!
くそっ
火消しの奴らも呼んでこい!!
体力に自信あるなら人足でも構わん!!
ガラ
おい また妙な死体が出たってよ 今度は この時分に凍え死にだとか
ねぇ
鳥鹿野郎!! 与太話は余所でやれ こちとら忙しいんだ!!
はぁ……
……
――世も末だぜ


じわ、
ス――…
じりり…
ぽた
ぽた
ぽたん
ひっ

ビリッ
!?
ぽたり

!?
!?
ぐしゃ
ぐしゃ


ぎゃ——
ゴ

うっ
すみません
ぶす
ぶす
はうう
なんの
こう
こう
こう
少々休憩
しようかの

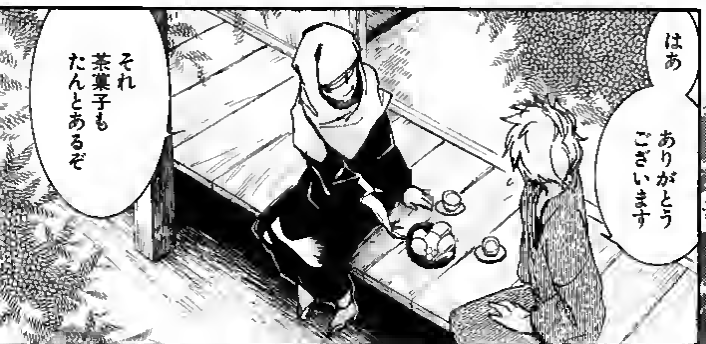
うわあああ
ほほ
失敗だの
カ

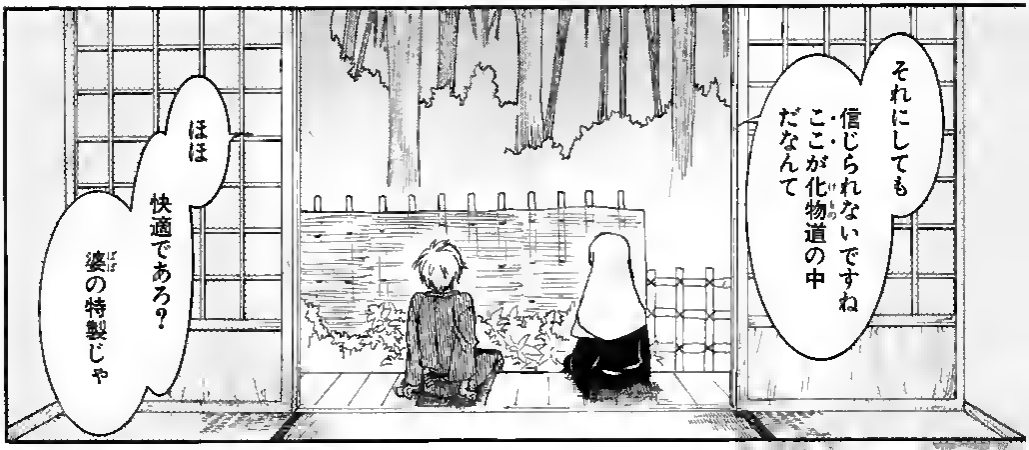
夏です

みーーん みんみん

みーーーーん…

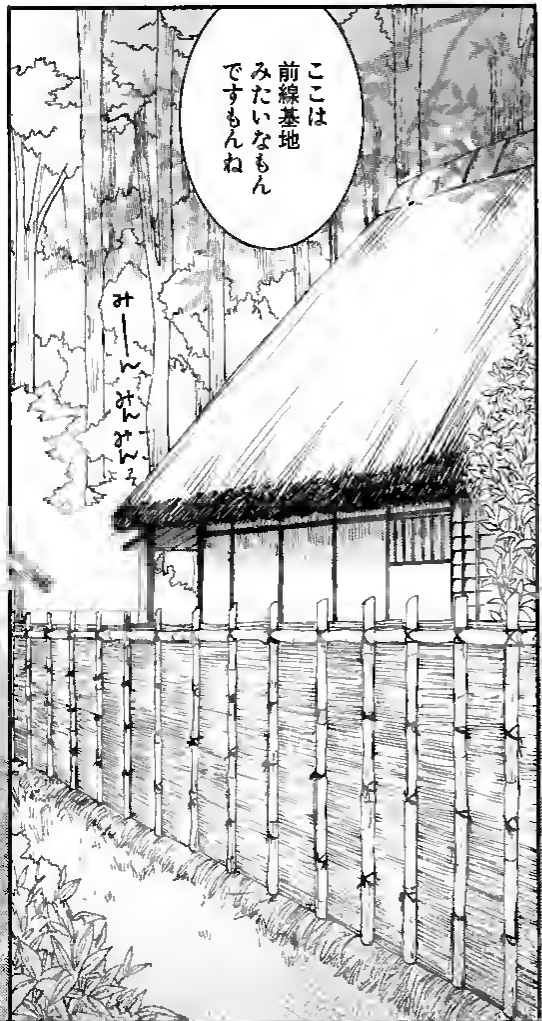
外では暑さで
風も温み
屋外に立つと
焦げるかのようです




それにしても
信じられないですね
ここが化物道の中
だなんて
ほほ
快適であろ？
婆の特製じゃ

見た目は貧弱でも
坂守神社と同じ
種類のものでも
あるからの
外からの干渉は
殆ど受けぬ

…と言っても この周辺一帯が大穴の
黒煙に呑まれておらなんだからこそ
できた芸当ではあるのだが…
ですね
すごく快適
ではあるけど


ここは
前線基地
みたいなもん
ですもんね
みーんみんみんっ

特訓の調子はどうだい
梵天
キィ
周りの様子はどうだった？
西に二刻ほど行ったところに見覚えのない毒沼ができていた
ふむ
東の崖の崩落はいかがであった？
今は収まってるでも地面はだいぶ緩んでいるから安心はできないだろうよ
なるほどの

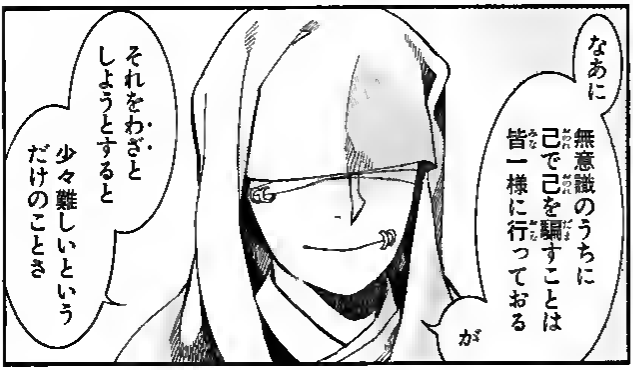
しかしまだしばしの猶予はあるかの
まぁね
現在俺は化物道の中で

「白紙の者」らしくなるべく特訓の真っ最中です
はあああ
頑張らなきゃな…

要点は
己の〈無自覚な記憶〉に
造られた〈映像〉を
混ぜる…ということでの
曖昧で形を成さぬ記憶を
形として纏める際に
「こうであれ」と願う形を
入れ込むのだよ

フロイトの言うところの
「前意識」を
自分の良いように
改竄する…
前意識(せ　も)
現に意識
精神分析で
されてはいな
が
意識化が可能な
心の領域・無意
識と意識
のはざま
の
領域のこと
という
ことだね
づ――

無意識とか意識とか
意味不明なんです
けどおおおお
わあ
哲学
じゃん!!
あ
ほほ
感覚を言葉で説明すると
どうしてもややこしくなるの


なあに
無意識のうちに
己で己を騙すことは
皆一様に行っておる
が
それをわざと
しようとすると
少々難しいという
だけのことさ

何を言う
単純な彼のことだ
誰よりも得意だと思うよ
「思い込む」なんてことは

思い込みねぇ…
緋堀さん曰く
俺のあの力は
俺が強く「思い込む」
ことで始めて
発動するのだそうだ
緋堀さんはあの時
一瞬だけ
俺の意識を奪った
私のように人を
惑わす類の術を
持つ者なら皆
同じようなことが
可能だの
〝暗示〟とは
他人では容易く
己で成すには
御し難い
そういう術なのだ
つまり君はプロの催眠術師と
同じことを自己暗示で
やろうとしてるってことだね
!?
なるほど…
あ！！
なんとなく
わかってきた
確かに

犬神の時も
夜行の時も
篠ノ女や緋禍さんに
目を覆われてから
ぼやーとしてるうちに
勝手にできてたんだ
よなぁ
うーん…
あれが暗示
なるほど
心配しなくとも
一度はできたこと
なんだから なんとか
なるだろうさ
へ？
今様という狐を
救ったのは
君の力だったろう？
その時の感覚を
思い出せばいい
うーん…あの時のことは
気絶しちゃったせいか
良く覚えてないんだ
よね
そもそも夜行の穴ン中だったし
俺だけの力って
言いきれるか
どうかは
結構あやしいとこだと
思うんだよなア
犬神の時も夜行の時も
結局は誰かの手助けで
実現した感じだし

良く使いこなせましたよね緋褪さん
うむ
一度目の発現の際の詳細と真朱の巫女の力のことは聞き及んでおったからの
共に世の進む形を捻じ曲げる力ではあるが その性質は私の力と似た類のものであるような気がしたからの
試してみればずばりであった
私は目で物を見ん代わり頭の中で像を結ぶ
それをこうして
ぷっ
折り紙を媒介し現し世に干渉させ術を成す
ぴょん
ドコ
私ごときの力では常に媒介を必要とする上
世界の流れなんぞというものを像に結び込むことはできぬ
しかし
白紙の者の力ではそれができる
ぴょーん
完全な無から有を作り
目に見えぬものも捉え操る
まさに神の御業よな
ぱら

言われれば言われるだけできる気がしなくなってきました

ほほほ

ううー

すまんすまん言いすぎたの？

ううー

……

…ならばあの男は？

？

おやこれはよい頃合に

!!

ガバッ

カラカラーン

飯だ

飯だ――!!

六合殿？

わぁい♥

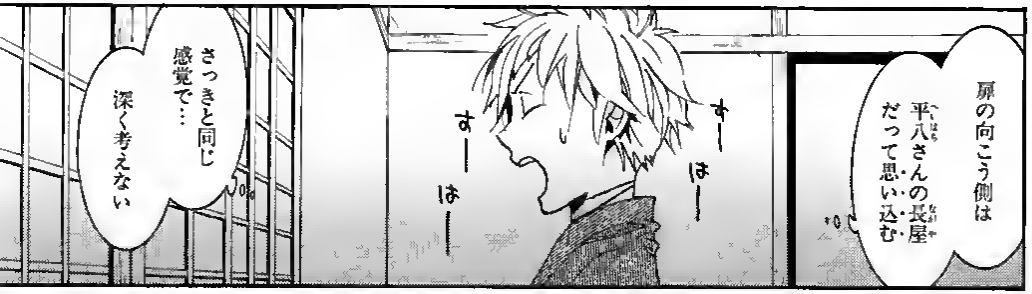
に♥

本日の訓練の復習じゃ

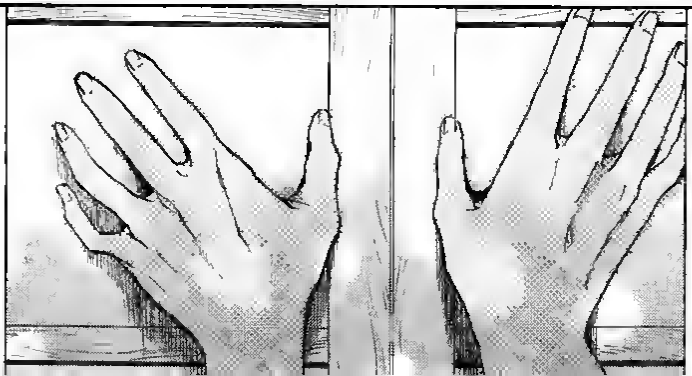
化物道の扉主が開いて友を迎えてやりなされ

またまた緋槻さん曰く

化物道は妖達のような
「形にならない形のある者達」の
住処だから 俺の訓練には
向いている場所らしい



「形にならない形あるもの」を
妖や緋槻さんのように
利用できるようになったら



それを一歩進めて
「存在しないものを形にする」
訓練にうつる

だ――
ちわ
――…はずなのだが

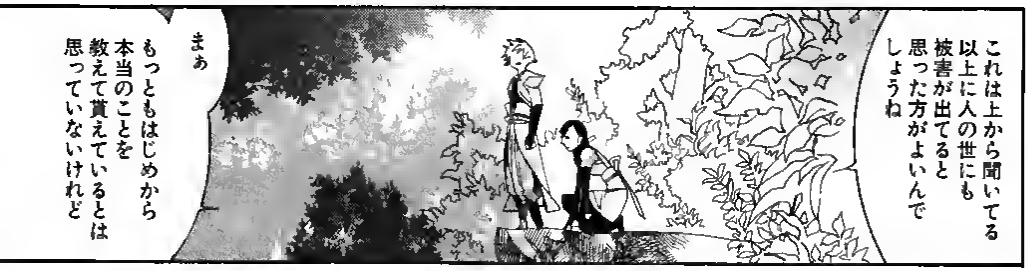
うわ――!?
…
何してんだ?
一段階目から
うまくいってません

はああああ
前途多難です…

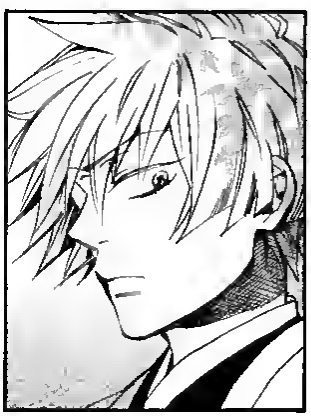
ざわ
ざわ

――…どう？
こっちは
もう駄目だな

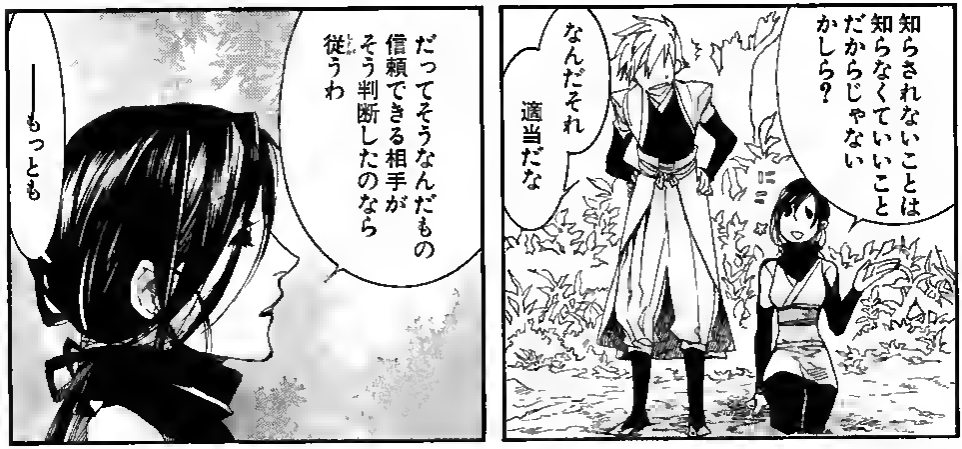
あと半刻もすれば
ここも一面黒く染まる
ふう
さすが煙
足の速いこと


これは上から聞いてる
以上に人の世にも
被害が出てると
思った方がよいんで
しょうね
まぁ
もっともはじめから
本当のことを
教えて貰えているとは
思っていないけれど

なぁ
？



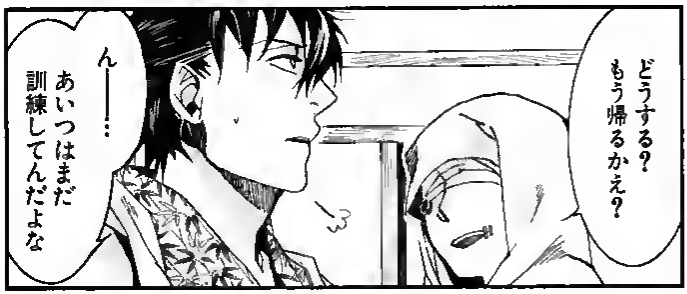
どうして本当のことを
知らされていないのに
腹を立てねぇんだ
……
それはまぁ
私はいちおう
忍の部類だし…

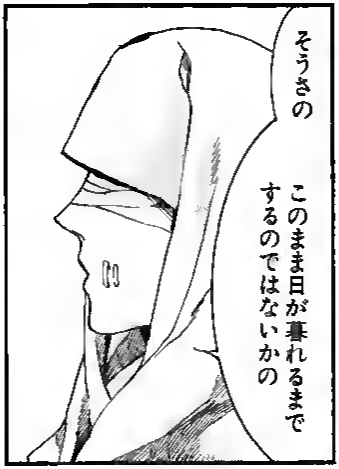

知らされないことは
知らなくていいこと
だからじゃない
かしら？
なんだそれ
適当だな
だってそうなんだもの
信頼できる相手が
そう判断したのなら
従うわ
——もっとも

それでも
どうしても知りたい
ことなら どうにかして 今みたいに！
自分で探るけれどね
！
にこ

だって
ただ教えろ教えろと
せがむばかりじゃ
まるで子供の
駄々のよう
じゃない
さて
早くここから
離れましょ
ざっ
――!!
そんな子供には
そりゃ誰も
何も教えて
くれないわよ

うむ
本日も美味であった
すまんの
私のための茶受けまで用意してくれて
いや
お粗末さん


どうする？
もう帰るかえ？
ん――…
あいつはまだ訓練してんだよな


そうさの
このまま日が暮れるまで
するのではないかの

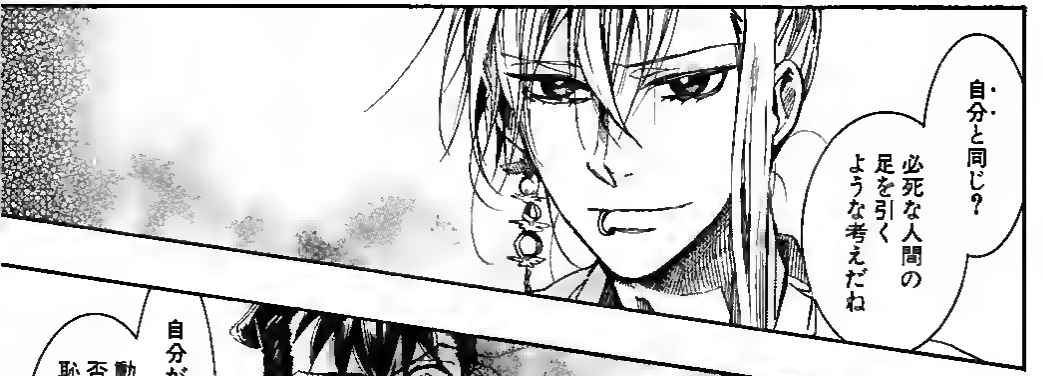
――ご苦労なこったな

少しは休んでんのかよ
さて
そのような暇はないしの

俺達と
違うならば
誰と同じつもり
なんだい？

ヒマがねえって…
おいおい
あいつはあんたらとは
違えんだぞ？

そんなに追い詰めて
どうするつもりだよ！
…


自分と同じ？
必死な人間の
足を引く
ような考えだね

自分が動けないからって
動く人のことを
否定するのは
恥知らずって言うんだよ

なんだと…!!
ぎり…

そうさの
今のそなたには
我らはおかしく
見えるであろうな
しかし
それは我らには必要があり
決して無為に行っていること
ではないのだよ

まあまあ
そういきり
立つことでは
ない
落ち着け
落ち着け

理解しろとは
言わんがせめて
応援くらいは
してやって
くれんかの
……
くそが

なんなんだよ
くそったれっ…！

あいつも
あんたらも
今の俺とか
前の俺とか…!!!

人のこと
勝手に
線引きしてんしゃ
ねえよ…！
——そうだな
他人に勝手に
貼られたレッテルほど
不快なものはない
？
ならば直接
本人に聞くとしよう
俺も君を見てから
ずっと疑問だった

君は一体
何者だ
「初代白紙の者」と
言われているそうだが
それだけではないだろう
そんなもの
だったなら
君はとっくに
俺達と関わり
今の六合のように
嵐に巻き込まれていたはず

なのに君は
今日まで
見事なまでに
天網と嵐から
逃げてみせた
只人でありえた
それは一体どうしてだ？
帝天の力に
君が負けた
からか？
否な
あの時の
神社で君は
只人の身で
ありながら
白紙の力を
引き出した
考えろ
ているな？
のだ
穴合はあの時
たまたま君が目を
覆ったために力を
上手く発動できたのだと
思っているようだけれど
白紙の力は
たまたま上手く
引き出せるような
種類のものではない
ならば
あの時
穴合の力を
君はわかっていて
引き出したんだ
天網を動かす術を知る者が
帝天の力に負けるわけがない

昔の自分

今の自分

どこか変わったんだろうか

でも少なくとも

こういう場所で　まず逃げ出そうとしない根性は

身に付いたと思う

…ちぶん。

ムキ

第七十三夜
麦踏み／橙（だいだい）

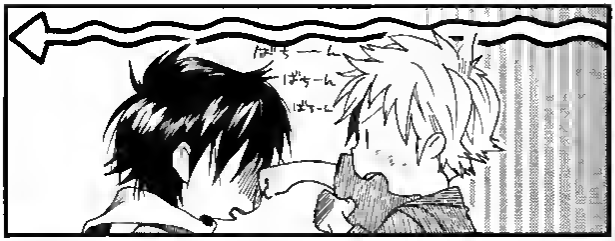
出口はどこだ…!!!
ぎりっ
そういやお前まだ緋禰さんに閉じ込められてたんだな
ははは
や――ハラ減ってねあさすがにメシはもらってる
か
ぐ
たっ
ガン
ガン
ガン

出口
!?
ぐあ
みしっ
は
っ…
みー
どこだ
やば
こいつ…
キレちゃってる…!!
ぐ!
ぐ!
ぐ!
みしっ…
ぜぇ
はぁ
はなせ
殺す
ボボ
気が
ゆらり
げほ
ごほ
本能かよくそっ
同じとこ狙ってきやがって
ごほっ
ごほっ

出口は
おまえが
それを聞くのか
出てどうする
つもりだよ
……？
ぴく
けほ
――お前なら
朽葉のいる所が
わかるってのか？
その犬神の
繋がりと
やらでさ！
なんだ
わかんねぇのか
はっ
結構
大したこと
ねーな 犬神

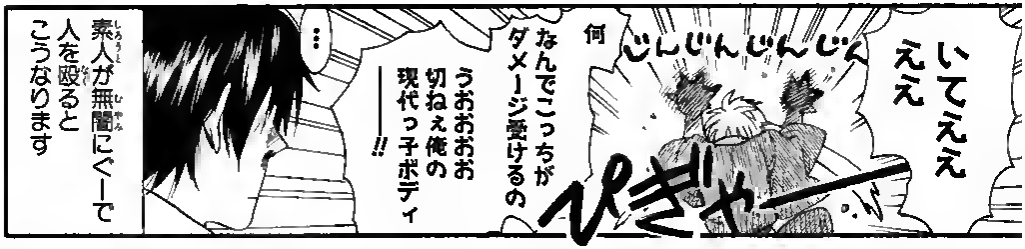
がはっ
――…お前に
お前なんぞに口出しされる筋合いはない!!
次に言ったら血を見るぞ…!!!
いってぇ…
くそ
う――…
マジいてえええええ
さいあく…!
ぬん

こんなん 俺一生 平和主義だわ…
ぶっ
ぶっ
ぷり
ぷり
ぷり


ばちーん
ばちーん
ばちーん

じわっ

キーン


いてええええ
じんじんじんじん
何
なんでこっちがダメージ受けるの
うおおおお切ねぇ俺の現代っ子ボディ——!!
ぴぎゃー
…
素人が無闇にぐーで人を殴るとこうなります

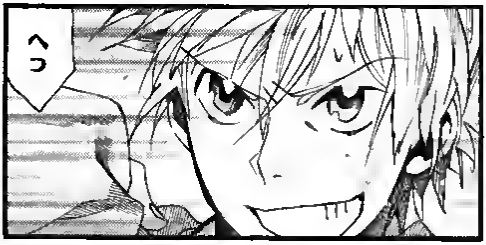
だけど少なくともお前よりはマシだと思ってるぜ
何…
ぴく

おーおー高設ごもっともてめぇが情けねーよ
あとくり

——…この程度の男がこの世を背負うか
悲劇を通り越して喜劇だな
ぐぃ

お前みたいに自己中なガキには
朽葉も緋禮さんも藍凪さんも勿体ないっつってんの!

この


へっ

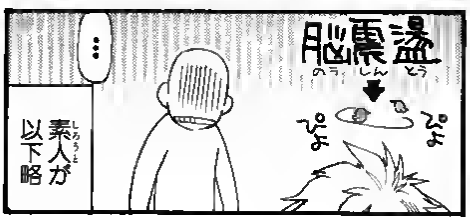
!?
つかまえ

たっ

みし…
ぐっ…
……っ!!
みしっ…

くらぁ

ばたん


脳震盪
ぴよ
ぴよ
…
素人が
以下略

阿呆らしい！
緋禍!!
俺をここから出せ!!
これ以上俺の邪魔をするなら あんたとて容赦しないぞ!!
早く出しやがれ
くそばばあ
……なんで
なんでお前が出してもらえないかわめく前にちったぁ考えろよ

お前緋禍さんが意地悪でそんなこと…
すると思うのか？
邪魔をしているのは悪意以外の何物でもない!!事実だ!!
あ――もう怒鳴るなよ

出してもらってから
どーすんだよ？

ふら

朽葉捜して
一人で闇雲に
突っ込むつもりか？

ここの外には
夜行の手先になってる
妖がうじゃうじゃ
いるってのに？

黒煙の奥が
どうなっているかなんて
入った俺ですら
わかんねぇのに…

何も手がかりがない
お前が一人で
突っ込んで
いくのか!?

――そんなもの

動かん弱者の
卑屈な言い訳だ

馬鹿野郎!!
お前を心配する人を
弱者呼ばわりか!!!

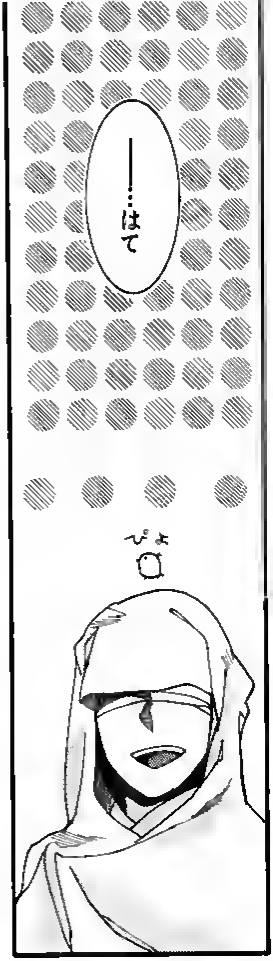
水ぶっかけりゃ
少しは冷静になれんのか!?

お前空回ってんだよ

気付けよ
人に言われる
前に!!

お前を出したら
どうなるかなんて
俺でもわかんだよ
死にはしなくても
大怪我して終わりだよ
陰陽寮の人達は
お前にそうなって
ほしくないから
ここに閉じ込めてたんだろ
お前 俺より
皆の役に立てるくせして
馬鹿やってんじゃねーよ
甘えんな
ぎゅう
犬神パワーで
超人に変身でも
できんのか!?
できないならお前は
ただの馬鹿だ!!
てめーが犬神憑きだからって
犬死に希望が
笑っちまうぜ!!
だったらお前のすることは
ここで暴れ回ることじゃなくて
大人しく深呼吸して
メシ食って寝て外出て
皆を手伝うことだろ!?
人手は阿呆ほど足りないんだから
……

それに俺は
朽葉を迎えに行く役目
お前になんて譲る気ないから
ぷち
ゴゴゴ
ゴゴゴゴゴ
ゴゴ
アア!!


――…はて
ぴょ

――…
なんぞしておるのか
このいたずら猫め
あっ

――子猫でも
ぐぅぅ

ズゴゴゴゴ
甘噛みの仕方を間違えば
しこたまに反撃されると
いうもの
ならば育ちすぎた
馬鹿猫の聞き捨て
ならない暴言には
それ相応のしつけが上等
ん?
宣草(んぜう)

成敗
えっ ちょっ まっ
藍鼠さん 俺も巻き込…
ザシャアアアン
うぎゃあああ
！！！
…ふう
ポイ
慶喜様
バキャ
バキ

どうです
塩梅は？
よいものか
どいつもこいつも
血迷いやがって
捕らえた浪人共から上まで
引っ張っていけるかと思いきや
糸はすぐ途切れやがる

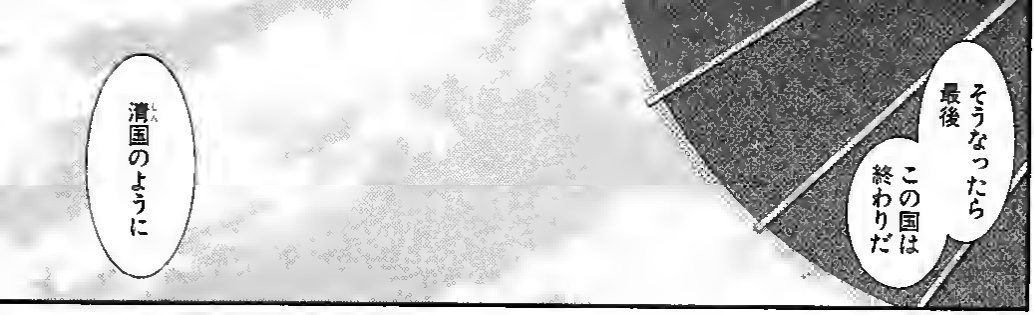
倒幕・佐幕
両陣共に今の動きにゃ
眉を顰めているようで
そりゃそうだ
どいつもこいつも
時期尚早
考えなしも
いいとこだ
暴れるにせよ
誅するにせよ
もっとうまく
効果的な方法は
ごまんとある

そういうモノが
本当にいるなら
今度こそ夷狄共に
神風が吹く
はは

妖が人を
襲うという
話も皆 口々に
はは
そんなもんが
存在するなら
この国も今後
安泰だな

まるで
悪い病に
浮かされてる
みてぇに
端から順に
考えなしに
動いてやがる
……
妙なことだぜ
人だけでなく

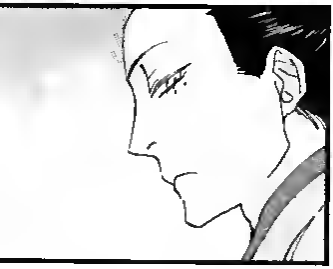
……
今の心配は
それだ
辰五郎
頭に熱が
いっちまった奴が
海の外にドカンと一発
打ち込みやしねえか


そうなったら
最後
この国は
終わりだ
清国のように

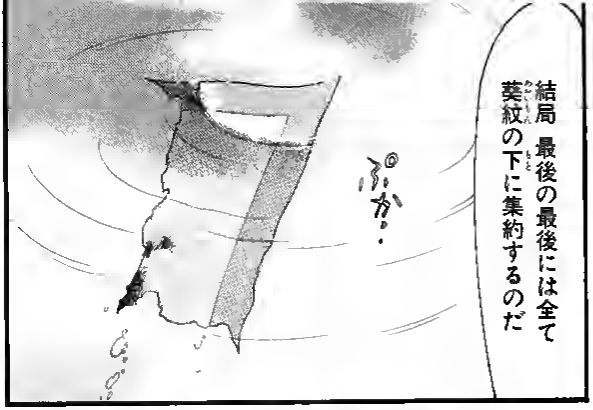
こんな大事な
時
慶喜様がもっと
大きく動けりゃ
よかったんですが
ねぇ
はぁ
おい辰五郎
将軍後見職が
小役とでも？

それにあまり
過小評価するな
あいつは
できた「上様」だよ
見目もよい
頭もよい
人もよい
和宮との
公武合体とて
あやつの人徳
あってこそ

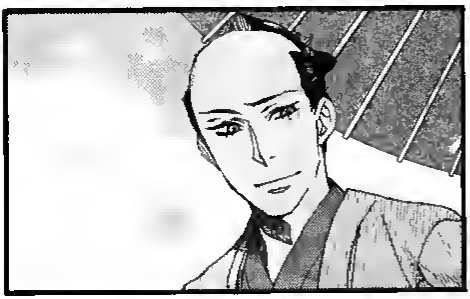
——ただ
清廉すぎ
それ故か
病い神にも
好かれがち
——かと



だから
代わりに
私がいる


結局 最後の最後には全て
葵紋の下に集約するのだ
ぴか・

あいつが裏で
どう動こうと
バキューン



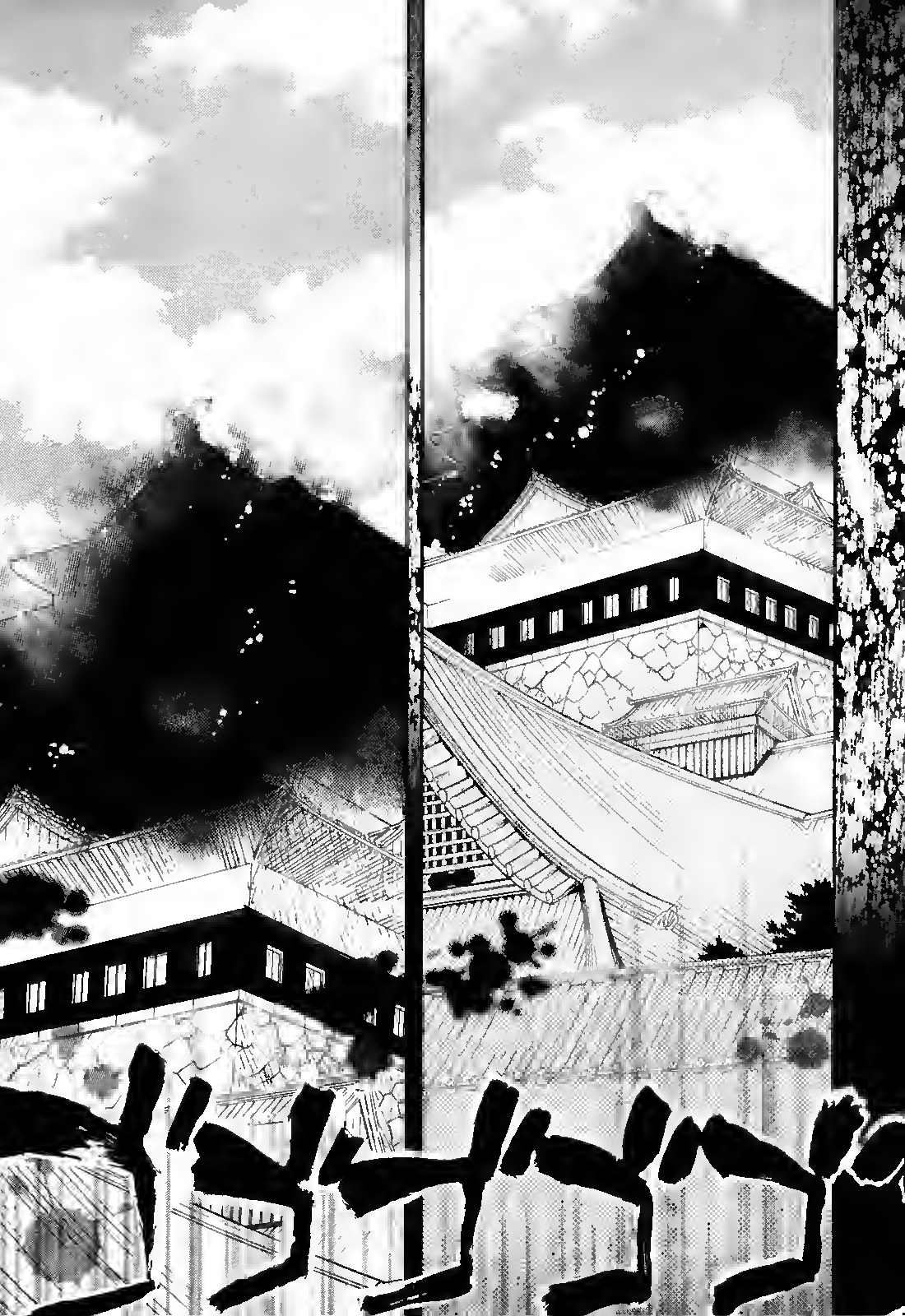
なるほど
川の流れは結果
あんたのもんかい
慶喜さん

?
慶喜さん?

……
ぴく

さて
これらを手土産にして
上様のご尊顔
拝みに行かねぇとな
辰五郎
引き続き頼んだぜ
へい
じゃり

なんだ?
あれは…
!?



後の者は町中の怪異鎮めに出向いております
使いは出しました故半刻すれば半数は集まるかと
ざわ
ざわ
ざわ
——ならば仕方ない 事態は急を要する
今動ける者達で先を行き追って他の者にも命を出す
ざわ
ざわ
ざわ
——今 集まるのはこれだけか…？
ざわ
ざわ
佐々木さん…？
一体何が——…
——一刻前
江戸城の一郭が闇に呑まれた

!?
内部から天守へ行く道は
もやに閉ざされ
何人たりとも――
獣一匹通れなくなっている
正しくは
江戸城天守閣
そのものが
すっぽりと
もやに沈んだ
そして同刻
天守最上部にて
私との密談予定の
あった上様が
所在不明に
なっている

初出：月刊コミックZERO-SUM平成22年5月号～平成22年10月号

高い高い
天空にそびえる
城に閉じ込められた
お姫様

上様を
狙っていた夜行共も
きっと
そこにいるはずだ

窓から
垂らす
長い髪は？

切り捨て
られて
もう足りない

窓から
伸ばす
長い腕は？

切り捨て
られて
もう足りない

助けを求める
その声を
切り捨てないと
言うのなら

「王子様」には
役者不足？

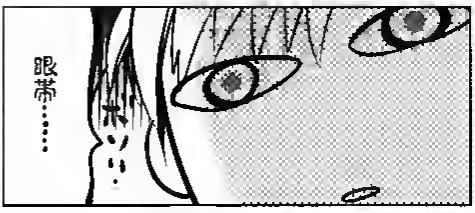
なあに構時
そんなことは問題じゃねえ
ヒーローなんて必要ない
お前でいいんだ
早く来い
ほら皆がこの場所で
お前のことを待っている

あまつき12　おわり

おまけのまとめ!
あまつき12巻
読了感謝!
買った奴は褒めてやろう
買ってない奴も
一応は礼を言う
…一応、だがな
ねー
って
おい
なんなんだ
さっきから
この腕は
え?
この巻で俺ら
マブなダチに
なったじゃん?
しゃらら
だから
おい
いけ露草
なんかあの
馬鹿の急の
根を完全に
止めるような
強烈な
毒舌を吐け
は!?
なんで
だよ
自分で
やれよ!
もうこれ
以上アレと
口をきき
たくない
ずず
ずずず
おや露草あ〜?
な なん
だよ…
やっと梵天と
仲なおり
できたのか
よかったなあ
ミリ
ぷるるん
ぷるるん
ぷるるん

なんだ
なんだ!?
?!
ズリリリリリ

ぬぬぬぬ…


眼帯……
ボソリ…

うっ
ズキッ

過去の
記憶…
ボソリ…

ううっ
ズキズキ…

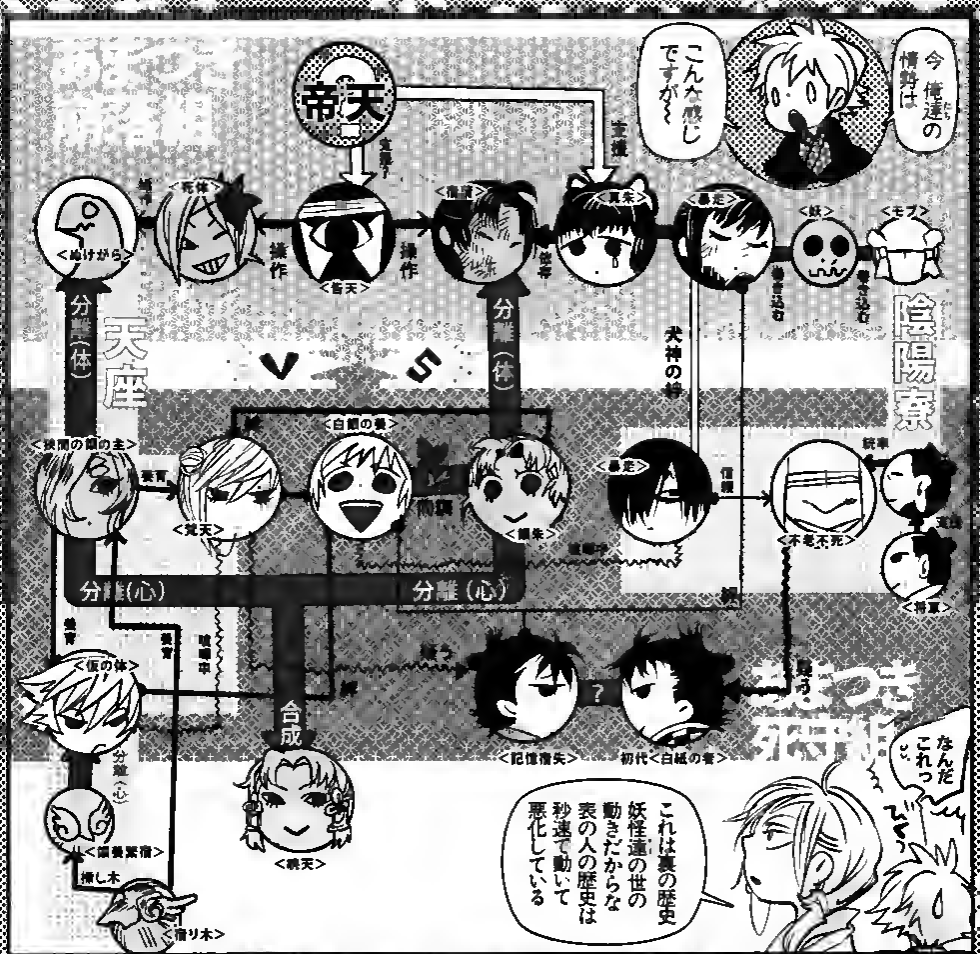
勝利イ!!
なに全面的に言い負かされてんだよテメエ!
うるせぇな急に対抗できるか
どうにかしやがれ
てめえらこそ自力で
わはははは三人抜きしてやったり!
おおお

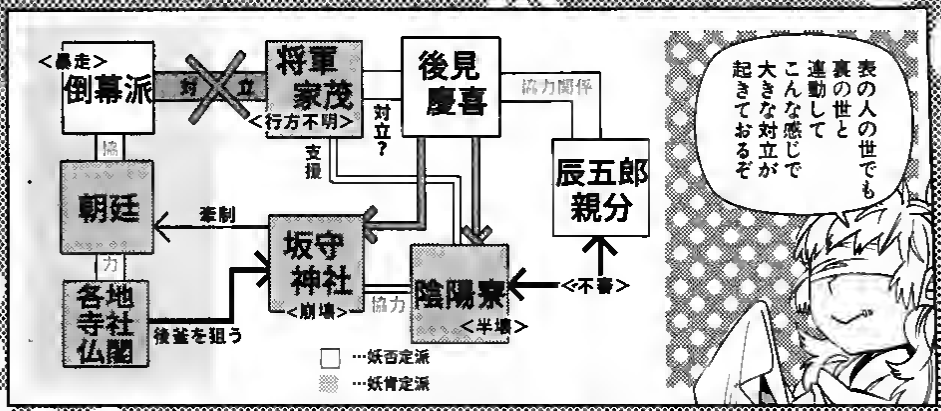
くうう苦節×年ついにこの栄光の瞬間が!
この圧倒的な優位さ!
ツッコミキャンセルまで可能な発言力!
快感っ!

ほほう?
そんなに楽しいか?
そりゃ勿論!
長年どんだけ圧政に耐え抜いてきたことか!
今や無敵だよ!?
ようやくここにきて主人公の面目躍如…

今巻でお互い全力で八つ当たりし合った相手（その自覚あり）
言わずもがなな相手
おぉ
調子に乗ってごめんなさい
ふん
？
よし!! いいぞ犬神コンビ！もっとやれ！
やっといつもの見慣れた構図だ！

トホホ…
それでは改めまして…皆様
あまつき12巻読破ありがとう
ございました…六合掲時でぇっす…
ココから通常仕様です～…
ぐすん
今巻は嵐の前の静けさ編！
…とでも言う感じの一冊です
麦踏みとは？
細く背が伸びた麦が梅雨で痩らないよう、あえて踏みつけて、ストレスを与えること。茎が太く、徒長しない ずんぐりした麦を作るために麦を踏みます。
ま～俺達的には あれこれと 悩みはあるけど 動き的には 一時休止って ところかな？


今 俺達の情勢は
こんな感じですが～
帝天
<帝天>
<ぬけがら>
死体
操作
操作
<真朱>
<暴走>
<妖>
<モブ>
陰陽寮
分離（体）
分離（体）
天座
5
<狭間の扉の主>
<覚天>
<白銀の者>
<真朱>
<暴走>
<不老不死>
<特夏>
分離（心）
分離（心）
<偽の体>
<記憶喪失>
初代<白紙の者>
あまつき
なんだこれっ
これは裏の歴史 妖怪達の世の 動きだからな 表の人の歴史は 秒速で動いて 悪化している
<晩天>
<借り本>
<借り本>
合成


表の人の世でも
真の世と
連動して
こんな感じで
大きな対立が
起きておるぞ
<暴走>
倒幕派
対立
将軍
家茂
<行方不明>
後見
慶喜
協力関係
対立?
支援
辰五郎
親分
朝廷
牽制
坂守
神社
<崩壊>
陰陽寮
<半壊>
<不審>
各地
寺社
仏閣
後釜を狙う
…妖否定派
…妖肯定派

ついに将軍と一般の人達まで巻き込んで俺達と夜行、引いては帝天の戦いの火蓋は切って落とされる!
ってところで気になる続きは以下次巻!
このまま引き続き13巻もよろしくね!
次巻頭から新章開始といったところか…
この切れ方って
?

実は「俺達の戦いはまだまだ始まったばかり!」という終わっていそうな区切りの良さだね?

本当にまだ連載が続いているかは本誌をチェック!
馬鹿野郎!不吉なこと言うな!
じゃあ次の巻で終わるとか?
当分終わんねえよ馬鹿!
良い子のみんなは今後も宜しくね!

ハイガクラとそのドラマCDもあわせて宜しくお願いします!
2010.7.14

おわり

それぞれの過去を糧に
彼らは妖が支配する地へと
「おまえは 誰だ」
あっちのことも
忘れてんのか…？
あっちのこと
――…って
なんだ…？

『皆が この場所で
お前のことを 待っている』

あまつき 13

2011年春
発売予定!!

B6判／定価580円(税込)

高山しのぶが描く新感覚中華ファンタジー

「俺達の
神を
取り戻す。」
『あの国はもう
沈むだけだ』
四凶という
巨大な柱を
欠いている今
この国は
――いつ沈んでも
おかしくはないのだと
いうことを…
我らの命運が尽き
この国が沈むが先か
一葉をはじめ
歌士達が
四凶を連れ戻すが先か
人柱となり もうこの国から
出られなくなった我らには
待つことしかできません
「今はただ祈り
待とうじゃ
ありませんか」
だけど一葉は
本気で
地震でも八百万の
蒼神でもない
半分伝説となった
奴を狙ってる
そうして
自害を
お国の力で
この国の
人柱から
解放してやれ
［ハイガクラ］
①～③巻好評発売中／定価各580円（税込）
「MR.MORNIG」全2巻［定価各580円（税込）］
「あまつき絵巻 金華糖 ―小さめにしてみました。―」
［定価1,200円（税込）］
こちらもよろしくね！

ZERO-SUM COMICS

あまつき
《限定版》

12

2010年11月5日　初版発行

著者／高山しのぶ

発行者／杉野庸介

担当編集／君島彩子

発行所／株式会社一迅社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-10　成信ビル8F
電話　03-5312-6851（編集）
電話　03-5312-6150（営業）

印刷・製本／凸版印刷株式会社

装幀／星野いづみ

本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁・乱丁本は株式会社一迅社販売課までお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-7580-5541-3
©高山しのぶ／一迅社2010　Printed in JAPAN

IDコミックススペシャル

●この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには関係ありません。